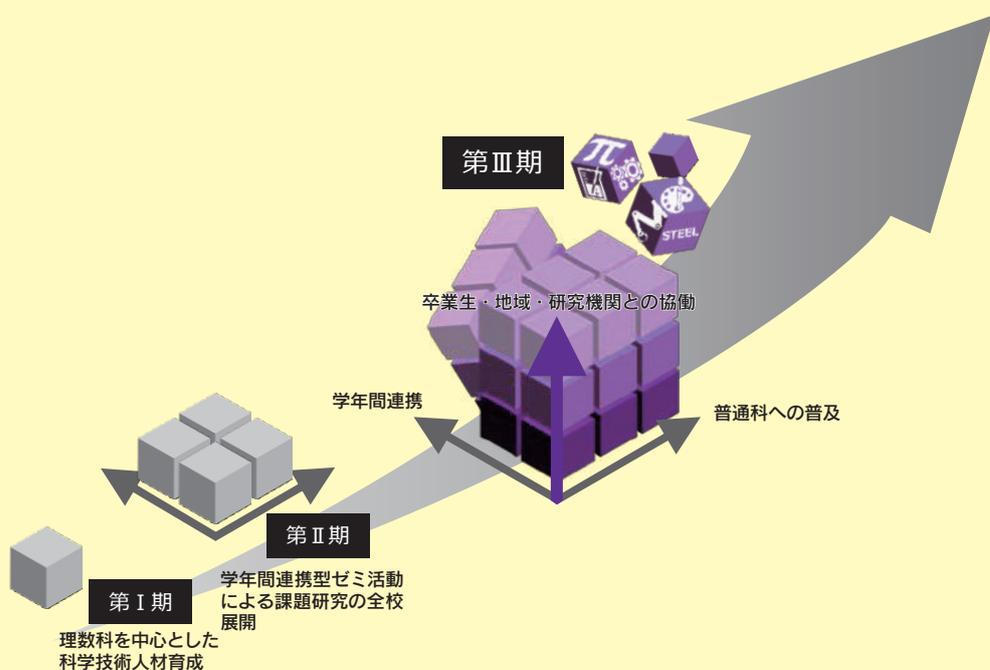


# 令和4年度指定 スーパーサイエンスハイスクール 研究開発実施報告書 (第4年次)



令和8年3月



岩手県立釜石高等学校

SSH  
Super Science High school

# SSH第Ⅲ期4年目を終えて

学校長 田鎖 伸也

本校のSSH事業は、第Ⅰ期で「理数科を中心とした科学技術人材育成」、第Ⅱ期では「学年間連携型ゼミ活動による課題研究の展開」に取り組んできました。その成果を基礎として、第Ⅲ期では「地域に新しい価値を生み出す、国際的な視野を持ったSTEEL人材育成プログラムの開発」をテーマに「学び合いの文化の中で醸成された主体性」「新たな課題を発見し新しい価値を生み出す精神」「地域課題の解決を通じたキャリア構築と探究の深化」と定義される科学的探究能力の育成を目指しています。第Ⅱ期までに培ってきた「学年間連携型ゼミ活動による課題研究の全校展開」を軸に、「多様な他者との関わりの中で、主体性・科学的探究能力・国際的視野を獲得、発展させる」ことが第Ⅲ期の中心課題です。

さて、今更ながら「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」は、先進的な科学技術、理科・数学教育を通じて、生徒の科学的な探究能力等を培うことで、将来社会を牽引する科学技術人材を育成するための取組です。

あるノーベル賞受賞者はかつて、「このままでは日本人からノーベル賞受賞者は出なくなる」と発言しています。勿論、研究はノーベル賞がすべてではありませんが、この発言は、昨今の比較的短期間での検証による物事の有用性判断、すなわち即効性の重要視というものに孕む危険性に対して鳴らされた警鐘であり、長期的に見た場合に様々な分野で役に立つ可能性をもつであろう基礎科学の研究に重きを置くことの大切さにも目を向けるべきであることの示唆であるとも感じています。このことについては、ある科学技術機関の方も同じ趣旨のことを話されています。予測困難な時代において、色々な結果が数年単位で求められる時間軸の短さも懸念されます。これは科学技術分野に限った傾向ではなく、今の日本および世界の社会全体に言えること、人間の思考の変化の傾向の一部とも考えられます。

私自身、学生の頃、5次以上の方程式にはどうして解の公式なるものが存在しないのか（正確には、代数的に解けないものが存在する）を知りたくて、数学に興味を抱いた経験があります。勿論、興味をもった理由はそれだけであり、後に世の中の役に立ったことについて勉強しようと思ったわけではありません。しかし、その後、この理論で扱われた様々なコンテンツが、直接的ではないものの、インターネットをはじめとする通信や暗号技術、実現不可能な事物の存在の証明の重要性などにも役立っていることがわかりました。

高校生がもつ素朴な疑問や探究心を引き出し、育みながら、エスコートしていくこと、そして我々学校現場の教員たちも一緒にそのプロセスを楽しむことも大事な要素の一つと考えながら、今後も引き続き科学技術人材の育成に努めていきたいと思っています。

本校のSSH事業第Ⅲ期も、これから総括と次のステージへの本格的な準備に入ります。本事業を通じた科学技術人材の育成とカリキュラム開発、他校への発信をさらに強化していきたいと考えています。

# 目 次

## 卷頭言

①	令和7年度SSH研究開発実施報告（要約）	1
②	実施報告書（本文）Ⅴ SSH中間評価において指摘を受けた事項のこれまでの改善・対応状況	8
③	関係資料	
1	SSH活動に関する意識調査	9
2	STEELアンケート調査結果	16
3	SS総探（年間指導計画）	17
4	SS総探（研究テーマ一覧）	18
5	「科学者への道標」OPPシート	21
6	探究基礎 年間指導計画	22
7	科学英語 年間指導計画	23
8	SSH海外研修実施計画書	24
9	令和7年度教育課程表（普通科）	25
10	令和7年度教育課程表（理数科）	26
11	運営指導委員会会議録	27
12	用語集	30

岩手県立釜石高等学校	基礎枠
指定第Ⅲ期目	04～08

# ① 令和7年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）

① 研究開発課題											
地域に新しい価値を生み出す、国際的な視野を持ったSTEEL人材育成プログラムの開発											
② 研究開発の概要											
<p>異学年・卒業生・地域人材がゼミのメンターとなることで、協働的・探究的な学びをさらに発展させる。また、教科横断的な探究活動を全教科で実施することで、国際的な視野を持ち、主体的、協働的に地域課題に取り組む姿勢をもった科学技術人材（STEEL人材）を育成するプログラムを開発、実践する。</p> <p>国際的な視野を持ったSTEEL人材の育成に向けて、以下の仮説を設定し研究開発に取り組んだ。</p> <p>仮説1 学年間連携によるゼミ活動が、地域人材や卒業生との協働に発展することで、生徒中心の主体的・探究的で継続的な学びをより充実させることができる。</p> <p>仮説2 教科横断的な探究活動を、地域資源を活かして全教科で推進することで、地域の新たな価値を創造するための科学的探究能力の育成を図ることができる。</p> <p>仮説3 外国語でディスカッションをする経験や海外との共同研究を通して、国際的な視野を持って地域課題を解決しようとする姿勢が培われる。</p>											
③ 令和7年度実施規模											
学 科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計		実施規模
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
普通・理数科	142	4	—	—	—	—	—	—	142	4	全校生徒を対象に実施 ※普通科1学級は文理混合クラス
普通科	—	—	93	3	103	3	—	—	196	6	
理系	—	—	47	2※	36	1	—	—	83	3	
文系	—	—	46	2※	67	2	—	—	113	4	
理数科	—	—	25	1	27	1	—	—	52	2	
課程ごとの計	142	4	118	4	130	4	—	—	390	12	
④ 研究開発の内容											
○研究開発計画											
各年次の研究の目標、研究事項、実践内容の概要等の一覧を以下に示す。											
研究年次	研究開発計画										
第1年次	1 研究の目標	卒業生メンター、外部人材メンターを含めたメンターの効果的な活用条件を探り、STEEL人材育成プログラムの運営方法を確立する。									
	2 研究事項	卒業生メンター、外部人材メンターとの協働によるゼミ運営の試験的な実施とSTEEL人材育成プログラムの開発									
	3 実践内容の概要	卒業生メンター、外部人材メンターの獲得と各プログラムの試験的な実施、評価方法の開発									
	4 検討しておくべき事項	・次年度以降のゼミの改良案 ・STEEL人材育成プログラムの改良案									
第2年次	1 研究の目標	・外部メンターの効果的な活用とSTEEL人材育成プログラムの運営方法の改善 ・評価方法の改善									
	2 研究事項	各プログラムの効果の検証と改善									
	3 実践内容の概要	卒業生メンター、外部人材メンターの拡大と各プログラムの改良、評価方法の開発									
	4 検討しておくべき事項	釜フェス等における地域への探究活動の普及、探究・STEAM教育推進校への訪問・助言等を実施する。									
第3年次	1 研究の目標	・外部メンターの効果的な活用とSTEEL人材育成プログラムの効果の検証、改善 ・評価方法の改善									
	2 研究事項	各プログラムの効果の検証と改善									
	3 実践内容の概要	卒業生メンター、外部人材メンターの拡大と各プログラムの改良、評価方法の開発									
	4 検討しておくべき事項	釜フェス等における地域への探究活動の普及、探究・STEAM教育推進校への訪問・助言等を実施する。									

研究年次	研究開発計画	
第4年次 【今年度】	1 研究の目標	・外部メンターの効果の検証とSTEEL人材育成プログラムの効果の検証、改善 ・評価方法の改善
	2 研究事項	各プログラムの効果の検証と改善
	3 実践内容の概要	卒業生メンター、外部人材メンターの効果の検証と各プログラムの改良、評価方法の開発
	4 検討しておくべき事項	釜フェス等における地域への探究活動の普及、探究・STEAM教育推進校との交流を実施する。
第5年次	1 研究の目標	カリキュラム、評価方法の完成
	2 研究事項	カリキュラム全体としての効果の検証
	3 実践内容の概要	卒業生メンター、外部人材メンターと各プログラムの効果の検証、評価方法の完成

### ○教育課程上の特例

本事業に関わる教育課程の変更点を以下の表に示す。

学科・コース	開設する 教科・科目等		代替される 教科・科目等		対 象	
	教科・科目名	単位数	教科・科目名	単位数		
普通・理数科	SS総探・SS総探Ⅰ	2	情報・情報Ⅰ	1	1学年	
			総合的な探究の時間	1		
普通科	SS総探・SS総探基礎	1	総合的な探究の時間	2	2学年普通科	
	SS総探・SS総探Ⅱ	1				
普通科	SS総探・SS総探Ⅲ	1	総合的な探究の時間	1	3学年普通科	
理数科	SS総探・SS理数総探Ⅱ	1	理数・理数探究 ----- 総合的な探究の時間	1	2学年理数科	
理数科	SS総探・SS理数総探Ⅲ	1	理数・理数探究 ----- 総合的な探究の時間	1	3学年理数科	
普通・理数科	SS数学	6	数学Ⅰ	3	1学年	
			数学A 数学Ⅱ	2 1		
			----- 理数数学Ⅰ	6		
普通・理数科	SS化学	7	化学基礎	2	1学年、2・3学年理数科	
			理数化学	7		
普通・理数科	SS地学	3	地学基礎	2	1学年、2学年理数科	
			理数地学	3		
理数科	SS物理	7	理数物理	7	2・3学年理数科選択者	
理数科	SS生物	7	理数生物	7	2・3学年理数科選択者	

上表のとおり、特例を講ずることにより、以下のような成果や課題が得られた。

- ・1学年「情報Ⅰ」で扱う情報に関する事例を「総合的な探究の時間」で扱う主体的・対話的で深い学びと関連付け、「SS総探Ⅰ」で実施した。具体的には、探究基礎の実施や地域の課題に対してデータを収集して統計的に処理・分析し、ICT機器を活用してポスターやプレゼンテーションに仕上げることに取り組んだ。これにより、生徒が主体となり具体的に課題を設定し、より良い解決方法の実現に向けて他者と協働する力や情報や情報技術を利用して課題解決を実現する力が向上した。
- ・2・3学年普通科「総合的な探究の時間」で扱う探究のプロセスに、探究基礎の実施や学年間連携による取組である「ゼミ活動」を組み入れ、多様な他者と協働した。これにより、科学的探究能力や課題発見力が育成され、主体性や協働する力が向上した。
- ・2学年理数科「理数探究」で扱う科学や数学の課題設定および解決の過程に学年間連携による取組である「ゼミ活動」を組み入れ、多様な他者と協働した。科学的探究能力や課題発見力が育成され、主体性や協働する力、科学的に考察する力が向上した。また、学年を超えた活動を通して課題研究のノウハウの伝達や、先行研究の活用が促進された。
- ・3学年理数科「総合的な探究の時間」で扱う探究のプロセスに、学年間連携による取組である「ゼミ活動」を組み入れ、上級生メンターとして活動することにより、主体性や協働する力が向上した。また、課題研究で取り組んだ内容を英語で発表し、ALTと質疑応答することなどを通して、英語活用能力や国際性を身につけた。

## ○令和7年度の教育課程の内容のうち特徴的な事項

学科・コース	第1学年		第2学年		第3学年		対象
	教科・科目名	単位数	教科・科目名	単位数	教科・科目名	単位数	
普通・理数科	SS総探Ⅰ	2	—	—	—	—	1学年
普通科	—	—	SS総探基礎	1	—	—	2学年普通科
普通科	—	—	SS総探Ⅱ	1	SS総探Ⅲ	1	2・3学年普通科
理数科	—	—	SS理数総探基礎	1	—	—	2学年理数科
理数科	—	—	科学英語	2	—	—	2学年理数科
理数科	—	—	SS理数総探Ⅱ	1	SS理数総探Ⅲ	1	2・3学年理数科

## ○具体的な研究事項・活動内容

### 【学校全体としての体制】

- (1) 理数科・SSH推進室を独立の分掌とし、SSH事業全体の企画・運営・経営を行った。また、全職員からなるSSH推進部(キャリア推進部、ICT推進部、探究基礎推進部、地域・国際連携推進部、ゼミ推進部)でゼミ活動や探究基礎の指導を分担し、SSH事業の運営・推進を図った。
- (2) 週1回、理数科・SSH推進室ミーティングを実施して事業全般の予定、進捗状況等を確認し、調整を図るとともに、各事業は担当推進部が中心となって運営した。
- (3) 校内研修会を以下のとおり行った。  
ア 年度始め研修会：SSH事業の全般について、「SSHの手引き」を用いて全職員に対して行った。  
イ SSH検討会：各推進部が進めている事案について情報を提供しながら、全職員で行った。
- (4) キャリア推進部が中心となって、地域コーディネーターや774プロジェクトと連携し、生徒と地域人材をゼミ活動や進路の相談等で接続する役割を担った。
- (5) ICT推進部が中心となって、ICT機器についての目安箱設置、採点システムの講習、Teamsに活用事例などの発信などを行った。
- (6) 探究基礎推進部が主導して、1～3学年の「探究基礎」を担当する教員の運営体制を改善し、各学年の探究基礎授業の内容改善、探究基礎をモデルとした探究型授業の各教科への普及拡大に取り組んだ。
- (7) 地域・国際連携推進部が中心となって、ゼミ活動に定期的に協力いただく地域メンターの日程調整を行うとともに、卒業生・地域人材メンターのデータベースをまとめた。
- (8) ゼミ推進部が主催し、ゼミ長中心のゼミ運営を行うため、毎週水曜日の昼休みにゼミ長会議を行い、探究活動の活動内容や見通しを確認して各ゼミに持ち帰ってもらうことで、主体的な探究活動の体制を整えた。

### 【仮説1関連】異学年・卒業生・地域の多様な他者との協働的・探究的な学びの創造

- (1) SS総探Ⅰ「地域科学探究」：1学年普通・理数科に対し、4月から6月にかけて、木曜日の6、7校時の授業で実施した。釜石市役所、釜石市の企業と連携し、自然環境、産業、医療福祉および行政等についての課題解決に向けたプロセスを学びながら、ワークショップやフィールドワーク等を行い、課題の発見・設定・解決能力を育成した。また、OPP (One Page Portfolio) シートの電子化を行った。
- (2) SS総探Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ「ゼミ活動」(普通科)：1学年普通・理数科は7月から3月にかけて、2学年普通科は通年、3学年普通科は4月から9月にかけて木曜日の6、7校時の授業で実施した。教科横断的な分野ゼミとして8ゼミを組織し、各ゼミ内に個人またはグループを編成して調査、実験等の探究活動を行った。3年生が上級生メンターとして活動のサポートを行い、研究活動の高度化を図った。研究成果は各種課題研究発表会等で発表した。指導体制の改善、ゼミ単位での活動進捗状況報告会の実施による適切なアドバイスの提供、研修・オリエンテーションの充実を図った。
- (3) SS理数総探Ⅱ・Ⅲ「理数ゼミ活動」(理数科)：2学年理数科は通年、3学年理数科は4月から9月にかけて木曜日の6、7校時の授業で実施した。「数学情報ゼミ」「理科①ゼミ」「理科②ゼミ」の3つのゼミを組織した。主に物理・化学・生物・数学などの理数系分野からテーマを設定し探究活動を行った。グループ編成から研究テーマの確定までを早期に行い、中間発表までの時間を確保することで研究内容を充実させた。3年生が上級生メンターとしてサポートを行い、研究活動の高度化を図った。研究成果は各種課題研究発表会等で発表した。
- (4) 科学者養成研修：理数科において、①「理数科基礎研修」、②「統計学・データサイエンス講座」、③「プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ」および④「研究施設研修」を実施した。③のⅡは岩手県立大学ソフトウェア情報学部で実施した。各講座の終了後にフィードバックを行い、アンケートやOPPシートに記録した。OPPシートは「科学者への道標」と題し、講座ごとに「得た知識」および「科学者の心得」を記入した。どの研修においても実物に触れて思考を働かせる場面があったことが効果的であった。地元で起業し科学的手法で課題解決を図っている方々の講演や実習などを組み入れ、先端の科学者と交流することによって、科学的探究能力や自己実現に向かう力が向上した。
- (5) UBS-釜石アプリアプロジェクト：UBS証券株式会社の協力のもと希望者を募り、「プログラミング講座」を11月から2月まで実施し1年生14名が受講した。774プロジェクトを活用し指導体制を整えたことで進度の足並みが揃い、個別対応が減って講師の負担も軽減できた。
- (6) 釜フェス：各ゼミやグループの取組を地域に広く発信し、中学生や一般来場者に対して探究活動の体験プログラムを計画した。ポスターセッションや探究活動の体験を通じて、中学生に科学的探究を紹介する予定であったが、

途中で津波警報が発令され中止となった。

- (7) 10月に中間発表会、2月に課題研究発表会を行った。2月の発表会では生徒の口頭発表とポスター発表に加え、本校卒業生による講演、本校卒業生12名の大学等での研究のポスター発表を実施した。課題研究発表会には外部から65名が参加した。
- (8) 各種科学系コンテスト、各種課題研究発表会・論文コンテストへの参加：「科学の甲子園」に希望者を募り参加した。また、発表者を理数科のみならず普通科にも拡大し、東北地区サイエンスコミュニティ研究発表会や岩手大学地域連携フォーラム等で発表した。さらに、生徒が作成した論文を、外部コンテストに応募した。坊っちゃん科学賞研究論文コンテストで理数科理科②ゼミ「シカのルーメンがもつセルロース分解菌の調査」が入賞、理数科理科①ゼミ「化学の力で挑む!カメムシ臭徹底分解メソッド」が佳作を受賞した。

#### 【仮説2関連】課題研究と各教科における探究活動が一体となった科学的探究能力育成

- (1) S S 総探 I 「探究基礎 I」・ S S 総探基礎「探究基礎 II」：木曜日の6、7校時の授業で実施した。「探究基礎」で本校生徒につけさせたいコンピテンシーを「情報、データを分析する力」「探究サイクルを繰り返し、探究を深める力」「先行研究、文献を探す力」「課題発見力、仮説設定力」と設定して、コンピテンシーごとに複数教科の教員がチームとなって指導にあたり、教科横断的な課題解決学習として取り組んだ。
- (2) S S 理数総探基礎「探究基礎 II」：木曜日の6、7校時の授業で実施した。理数科において、「探究基礎 II」の内容に t 検定や定量的な実験などを加えて実施した。本校生徒につけさせたいコンピテンシーを「情報、データを分析する力」「探究サイクルを繰り返し、探究を深める力」「先行研究、文献を探す力」「課題発見力、仮説設定力」と設定して、コンピテンシーごとに複数教科の教員がチームとなって指導にあたり、教科横断的な課題解決学習として取り組んだ。
- (3) S S 総探 III 「探究基礎 III」・ S S 理数総探 III 「探究基礎 III」：木曜日の6、7校時の授業で実施した。3年生が、取り組んだ研究を論文にまとめる「論文作成」に取り組んだ。作成時間を確保することを意識して講座内容をブラッシュアップするとともに、国語科教員による「論文作成ガイダンス」を行った。日本語論文は理数科生徒を中心に外部コンテスト等に応募した。
- (4) 互見授業を活用し、探究的な学び・教科横断的な学び等、テーマを設定して探究型授業を行った。他教科の教員と協働した授業が行われた。
- (5) 理数科3年生に対する物理・化学・生物の実験課外を県内教員に案内し公開実施した。県内の4名の他校生も実験課外に参加した。

#### 【仮説3関連】英語コミュニケーションに基づく科学的探究能力錬成プログラムによる、国際的視野を持った科学技術人材育成

- (1) 1日体験留学：1年生の希望者35名に対して9月に実施した。釜石市や近隣の地域に在住の外国人5名が講師として来校し、参加した生徒に対して、自国紹介や質疑応答を実施した。対面で様々な外国文化に触れることで、生徒の国際的な興味関心を高めることができた。
- (2) 科学英語：週2単位で実施した。十分なインプットをしてからアウトプット活動に移行しプレゼンテーションの力を養うという形を継承した。サイエンスダイアログは事前事後の学習を丁寧に行うことで外国人研究者の講義内容の理解に深めた。加えて、発表において自分の言葉で質疑応答に対応できるよう、プレゼンテーションを行い、生徒どうして質疑応答するなどコミュニケーション活動の機会を増やし、自分の言葉で説明や質問をする力を身につけた。
- (3) S S 理数総探 II：理数科の一部の研究グループは「環境」「プラスチック」のキーワードに関連した研究テーマを設定していたため、イギリスのUWC (United World College) との研究交流を継続した。UWC の運営するホームページ上で互いの活動を報告し、コメントを投稿することで意見交換を行ったが、UWC 側の都合によりあまり交流ができなかった。
- (4) S S 理数総探 III 「課題研究英語発表会」：研究をまとめ英語で口頭発表することにより、論理的な文章構成力や英語で表現する力、ディスカッション能力を高めた。英語科教員がそれぞれ1～2グループずつを担当し、英語原稿と発表スライドのチェックや発音指導を行った。事前に英語プレ発表と質疑応答を行い、質問に対し円滑かつ臨機応変に対応できるようになるための準備に十分な時間をかけた。
- (5) 海外研修：将来国際的に活躍する科学技術人材を育てるための海外研修を、台湾で12月に実施した（引率3名、生徒10名）。10月から計10回の事前研修を企画し、英語力向上や台湾について理解を深めるための学習に取り組んだ。また、帰国後も計10回の事後研修を行い、報告書作成や1・2年生向けの報告会の準備を進め、国際的視野を育みながら現地でも学んだことについてさらに理解を深めることができた。2月に全校生徒に対して台湾研修報告会を実施した。
- (6) ペンパルプロジェクト：12月から2月にかけて、メール交換やオンライン交流会を実施した。1年生の希望者9名とタイの高校生9名が参加した。

### ⑤ 研究開発の成果

(根拠となるデータ等は「㊦関係資料」に掲載。)

#### (1) 【仮説1関連】多様な他者との協働的・探究的なゼミ活動を行った成果

ア 多様な他者（地域人材や卒業生）との協働的な探究活動によるゼミ活動の発展（他者とのつながり、研究の広がり、研究の深まり）

学年間連携やゼミ長中心による本校のゼミ活動運営が、地域人材や卒業生との協働に発展し主体性の向上につながったか、以下の通り検証し、成果について考察する。

6年度は、中間発表時のアンケートではゼミによる進捗状況に差が見られたため、中間発表会後から、ゼミ担当教員と研究グループとの面談と地域コーディネーターとのやり取りを定期的に行うことにより、課題の解決を図った。その結果、生徒や教員への年度末のアンケートでは、外部人材との交流が増え、探究活動が良い方向に向かっているという回答が得られた。7年度もゼミ長中心のゼミ運営に資するため、毎週水曜日の昼休みにゼミ長会議を行い探究活動の活動内容や見通しを確認して各ゼミに持ち帰ることで、主体的な探究活動の体制を整えた。新たに、定期的にゼミ単位での活動進捗状況報告会を実施することにより、教員によるアドバイスの提供とともに、生徒が他のグループの取組状況を知ることで自らを省みる機会とした。

また、外部人材との協働があったグループ数は、6年度の35から7年度は58と大きく増加し、年々増加傾向がみられる。7年度は10以上の団体と関わったグループもあった。地域への働きかけが効果的に進んでいることが確認された。年度末のアンケートでは地域コーディネーターや地域団体の協力、大学との連携により、専門的なアドバイスを受けて研究が深まったと答えていた。

### イ さらなる科学的探究能力・技術習得（情報収集・整理、データ分析、資料作成、ディスカッション、ポスター作成、発表等）

科学的探究能力・技術習得に効果的であった事業としてもっとも多かったのが、「探究基礎や教科の授業」であった。アンケートでは、資料作成やディスカッション、データ分析などの方法が学べたとの回答が多く、探究基礎とゼミ活動を連動させて行うことができていた結果である。6年度にスライド作成やプレゼンテーションについて事前準備に対する課題を感じたとの回答が見られたため、7年度はスライド作成講座を実施した結果、事前準備を課題とする回答は見られず、発表参観者の感想ではスライドの見やすさを挙げる記述が多数見られた。

## (2)【仮説2関連】課題研究と各教科の探究活動が一体となった科学的探究能力育成を行った成果

### ア 科学的探究能力（STEEL）育成の達成度の評価（教員）

第三期で育成すべき科学的探究能力（STEEL）の定義は以下の通りである。

STEAM 教育『各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育』に加え、第Ⅱ期までに作り上げた学び合いの文化の中で醸成された主体性（=Education）、新たな課題を発見し新しい価値を生み出す精神（=Entrepreneurship）、地域課題の解決を通じたキャリア構築と探究の深化（=Local）を本校が育成すべき科学的探究能力（STEAM+Education+Entrepreneurship+Local=STEEL）と定義し、全校・地域が一丸となり推進する体制を作る必要がある。

年度末（1月）に実施した教員の意識調査の結果を、4年度から7年度の4年間で比較した（図1）。7年度は「わからない」という回答が多く、また、初めて「もともと高かった」の回答があった。各項目において「わからない」を除いた割合は年々肯定的な評価が増えており、「肯定－否定の対立が大きい5年度」から改善され、取組に対する達成度の評価は上がっている。しかし「わからない」が多い傾向があり、人事異動により本校に転任した教員が、SSHの取組を当たり前のもので捉えているが、取組の意義に対する理解の浸透が足りなかった結果と考えられる。

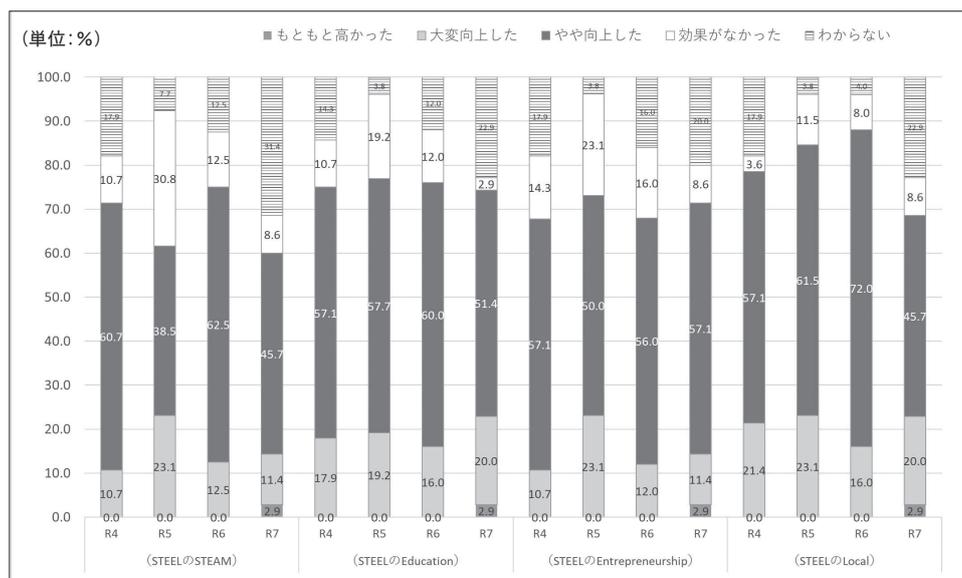


図1 教員の意識調査の比較 (R4～R7)

### イ 科学的探究能力（STEEL）育成の達成度の評価（生徒）

生徒の「STEELに関する意識調査」を3年生はゼミ終了時（9月）に、1、2年生は中間発表会後（10月）とゼミ内発表会後（1月）に実施した（③関係資料2）。学科比較では多くの質問項目で、普通科よりも理数科が高い傾

向が見られた。また、1、2年生の10月と1月の平均値比較は1月が高い傾向が見られ、有意な差があるか検証するため各質問項目に対する10月と1月の平均差の検定を行った結果を示す（表1）。多くの質問項目で有意な差がみられた。また、非有意なものも10月の時点で高い評価を得ているために非有意になったということ、理数科と普通科で調査結果を分けているものの普通科の方の人数が多いため、どうしても平均すると普通科寄りで低くなる傾向があるといったことが要因であると考えられる。

また、各質問項目との相関を調べた結果、スピアマンの順位相関係数では「探究基礎（木曜6校時）での学びを探究活動に活かしている」と回答した生徒ほど、探究テーマへの内発的動機づけ、探究サイクルの意識、ならびに対話的・地域的・国際的視点を伴う探究行動と強い正の相関を示した（Spearman  $\rho = 0.4\sim 0.6$ 、 $p < .001$ ）。

表1 STEELに関する意識調査の各質問項目に対する10月と1月の平均差の検定結果

学年	項目	n	平均差(1月-10月)	p値	効果量r	有意
1学年	勉強していて、面白い、役立つ、と思う教科（分野）がある	104	0.418269231	9.68E-05	0.726592136	有意
1学年	組み合わせることで、面白い、役に立つ、理解し易いなどと思う教科（分野）がある	104	0.447115385	0.00026054	0.684459332	有意
1学年	教科（分野）の組み合わせによって、興味が増す、または何か世の中の役に立つ事例を説明できる	104	0.298076923	0.027630802	0.532940228	有意
1学年	本やニュース、または普段の生活の中で、教科の知識がよざることがある	104	0.447115385	0.000478845	0.683823365	有意
1学年	教科の知識を、進路の調べものや、探究活動に活かしている	104	0.533653846	0.000665771	0.622452563	有意
1学年	教科の知識が、自身の希望する進路や探究テーマの中に生きている事例を説明できる	104	0.418269231	0.004446578	0.607666334	有意
1学年	ゼミの時間において、自分たちの探究テーマに関する議論は活発である	104	0.572115385	6.71E-06	0.755051653	有意
1学年	授業時間や授業以外の自習において、友人との勉強に関する議論は活発である	104	0.5	0.000777049	0.619113737	有意
1学年	自分よりも知識を持っている人と積極的に対話し、知識を得ようとしている	104	0.673076923	1.67E-05	0.681915465	有意
1学年	学校外のイベントや講演会やボランティアに参加して知見を得ている	104	0.394230769	0.021750958	0.620862646	有意
1学年	先輩、後輩、または校外の生徒の探究で、重要だ、面白い、と思うものがある	104	0.129807692	0.426324907	0.472523376	非有意
1学年	自分の進路目標または探究テーマについて、熱意や重要性、面白さを伝えることができる	104	0.5	0.000318734	0.663631417	有意
1学年	世の中の現状や課題をよく調べている	104	0.495192308	5.40E-05	0.677145713	有意
1学年	すでに世の中で行われている活動や研究をよく調べている	104	0.490384615	0.000254487	0.693680851	有意
1学年	実験結果や聞き取り調査結果に対し、科学的に適切な方法で分析し、新しい気づきを得ようとしている	104	0.475961538	0.001021102	0.624201472	有意
1学年	世の中の課題や未知の事象について取り組んでいる人や組織（大学や企業）を知っている	104	0.475961538	0.001416262	0.577139925	有意
1学年	アイデアを生み出し、実践し、改善することを繰り返して（探究サイクル）、探究や勉強に臨んでいる	104	0.538461538	0.00011531	0.625950381	有意
1学年	人生をかけて解決したい課題や解明したい事象、または創造したいものがある	104	0.447115385	0.004664408	0.654250906	有意
1学年	地域の資源（環境や人材）を活かして探究している	104	0.610576923	0.000183995	0.570621264	有意
1学年	釜石、または自分が暮らす地域の魅力を説明できる	104	0.480769231	0.000213505	0.707990106	有意
1学年	釜石、または自分が暮らす地域の課題を説明できる	104	0.451923077	0.002423893	0.633429292	有意
1学年	世界のある地域の魅力を説明できる	104	0.740384615	1.84E-07	0.754256695	有意
1学年	世界のある地域の課題を説明できる	104	0.629807692	6.86E-06	0.724048269	有意
1学年	世界全体が抱えている課題を説明できる	104	0.427884615	0.000545589	0.697019677	有意
1学年	世界のニュース、または大学や企業が組織が発信している情報を、見聞きしている	104	0.350961538	0.03257652	0.674919829	有意
1学年	身近な課題解決に臨むとき、海外の情報にも必要性を感じる	104	0.346153846	0.014235756	0.520379882	有意
1学年	自分の人生において、海外との交流は大切である	104	0.384615385	0.003848425	0.649640146	有意
1学年	探究活動（ゼミ）は楽しい	104	0.269230769	0.028850997	0.730089954	有意
1学年	探究活動（ゼミ）に熱心に取り組んでいる	104	0.418269231	0.000473371	0.717052634	有意
1学年	自分の探究テーマへの興味・関心は高い	104	0.201923077	0.077815101	0.650594097	非有意
1学年	教科の勉強は楽しい	104	0.245192308	0.026065837	0.718006584	有意
1学年	教科の勉強に熱心に取り組んでいる	104	0.399038462	0.001072304	0.701948421	有意
1学年	探究基礎（木曜6校時）での学びや活動を、探究活動（ゼミ）に活かしている	104	0.293269231	0.014797584	0.616410878	有意
2学年	勉強していて、面白い、役立つ、と思う教科（分野）がある	90	0.244444444	0.035167545	0.63535279	有意
2学年	組み合わせることで、面白い、役に立つ、理解し易いなどと思う教科（分野）がある	90	0.022222222	0.770622616	0.589332427	非有意
2学年	教科（分野）の組み合わせによって、興味が増す、または何か世の中の役に立つ事例を説明できる	90	0.494444444	0.005005879	0.612025418	有意
2学年	本やニュース、または普段の生活の中で、教科の知識がよざることがある	90	0.427777778	0.00247639	0.674797255	有意
2学年	教科の知識を、進路の調べものや、探究活動に活かしている	90	0.516666667	0.00098795	0.639806197	有意
2学年	教科の知識が、自身の希望する進路や探究テーマの中に生きている事例を説明できる	90	0.611111111	0.0003504	0.650197481	有意
2学年	ゼミの時間において、自分たちの探究テーマに関する議論は活発である	90	0.238888889	0.063562474	0.593151453	非有意
2学年	授業時間や授業以外の自習において、友人との勉強に関する議論は活発である	90	0.605555556	0.000378916	0.656347425	有意
2学年	自分よりも知識を持っている人と積極的に対話し、知識を得ようとしている	90	0.366666667	0.011054766	0.68256028	有意
2学年	学校外のイベントや講演会やボランティアに参加して知見を得ている	90	0.527777778	0.017066965	0.566855143	有意
2学年	先輩、後輩、または校外の生徒の探究で、重要だ、面白い、と思うものがある	90	0.444444444	0.002304125	0.700033231	有意
2学年	自分の進路目標または探究テーマについて、熱意や重要性、面白さを伝えることができる	90	0.261111111	0.085221509	0.577246426	非有意
2学年	世の中の現状や課題をよく調べている	90	0.511111111	0.002402624	0.623593471	有意
2学年	すでに世の中で行われている活動や研究をよく調べている	90	0.583333333	0.000995687	0.544800173	有意
2学年	実験結果や聞き取り調査結果に対し、科学的に適切な方法で分析し、新しい気づきを得ようとしている	90	0.488888889	0.00098442	0.639806197	有意
2学年	世の中の課題や未知の事象について取り組んでいる人や組織（大学や企業）を知っている	90	0.561111111	0.000199765	0.622628769	有意
2学年	アイデアを生み出し、実践し、改善することを繰り返して（探究サイクル）、探究や勉強に臨んでいる	90	0.461111111	0.001696651	0.51666984	有意
2学年	人生をかけて解決したい課題や解明したい事象、または創造したいものがある	90	0.683333333	0.000350736	0.642563068	有意
2学年	地域の資源（環境や人材）を活かして探究している	90	0.6	0.000489368	0.670131781	有意
2学年	釜石、または自分が暮らす地域の魅力を説明できる	90	0.4	0.011205701	0.641926867	有意
2学年	釜石、または自分が暮らす地域の課題を説明できる	90	0.433333333	0.008642531	0.547344977	有意
2学年	世界のある地域の魅力を説明できる	90	0.488888889	0.000323678	0.688581612	有意
2学年	世界のある地域の課題を説明できる	90	0.772222222	2.00E-06	0.721027866	有意
2学年	世界全体が抱えている課題を説明できる	90	0.416666667	0.002158653	0.62326497	有意
2学年	世界のニュース、または大学や企業が組織が発信している情報を、見聞きしている	90	0.444444444	0.011633881	0.563037936	有意
2学年	身近な課題解決に臨むとき、海外の情報にも必要性を感じる	90	0.161111111	0.164015185	0.451278617	非有意
2学年	自分の人生において、海外との交流は大切である	90	0.322222222	0.02462665	0.605875474	有意
2学年	探究活動（ゼミ）は楽しい	90	0.205555556	0.062835901	0.692822952	非有意
2学年	探究活動（ゼミ）に熱心に取り組んでいる	90	0.033333333	0.654131896	0.606723742	非有意
2学年	自分の探究テーマへの興味・関心は高い	90	0.038888889	0.654694934	0.617115026	非有意
2学年	教科の勉強は楽しい	90	0.377777778	0.011202526	0.675009322	有意
2学年	教科の勉強に熱心に取り組んでいる	90	0.366666667	0.007247042	0.648288878	有意
2学年	探究基礎（木曜6校時）での学びや活動を、探究活動（ゼミ）に活かしている	90	0.2	0.169865813	0.628990779	非有意

### (3)【仮説3関連】国際的視野を持った科学技術人材育成を行った成果

すべての事業においてほぼ全編にわたり英語を使い、ディスカッションなどコミュニケーション能力を養う活動が行われた。生徒の意識調査やアンケートからは、外国語で自分の意思を伝える技能の向上や関心の高まりが見られた。

また、生徒の「STEELに関する意識調査」(㊦関係資料2)のglobal(国際的視野)について分析したところ、10月と1月の比較では、1年は+0.453、2年普通科は+0.393、2年理数科は+0.364と短期成長が明確であった。「自分の人生において、海外との交流は大切である」が全体平均4.158で最も高く、学年・系列を問わず肯定的で、国際交流への価値認識は高かった。反対に、「世界のニュース…を見聞きしている」(3.606)や「世界のある地域の魅力／課題を説明できる」(3.686/3.629)が低く、情報のインプットと地域理解が相対的に弱いことが分かった。情報摂取と知識の言語化が次の成長の鍵になると考えられる。

## ⑥ 研究開発の課題

(根拠となるデータ等は「㊦関係資料」に掲載。)

文部科学省による中間評価における指摘事項やSSH運営指導委員会での提言等を踏まえ、第Ⅳ期に向けた課題と改善方針を検討する。

### (1) 全校体制の改善と教員の意識向上

SSHの取組に対する生徒、教員の意識の向上は着実に進んでいる。しかしながら、人事異動等によって、教員間のSSHの意義に対する認識に差が生じることが常に課題となり得る。教員の意識調査において、いずれの項目においても効果がなかったとする回答の割合が減少しているものの、「わからない」との回答が増えている。この状況を改善するため、SSH事業についての校内研修や成果発表の場を設け、探究活動や授業について、本校でSSHの取組を通して経験を積んだ教員による実践報告会を実施し、その成果や活動内容を広く共有することで、新任の教員が早期に本校の取組を理解し実践する助けとなるような環境を整え、SSHの意義を体感できる機会を増やす。

### (2) 人材育成と評価方法の改善

「STEEL」の育成には、STEAM教育、本校の学び合いの教育、アントレプレナーシップを育む教育、地域に根ざった教育という要素が含まれている。具体的な質問項目を設定すると同時に自由記述項目を増やすことで、生徒の意識変化をより詳細に把握できるようにし、生徒の成長を可視化できるようにアンケート設計を見直した。このアンケートの質問項目を再検討し改善を図る。すでに本校ではルーブリック評価を導入しているが、この評価方法を進化させ、分かりやすいワークシートを導入することで、生徒が自らの学習の進捗や達成度を正確に把握できるような仕組みづくりを目指す。OPPAの内容を定期的に分析し、探究活動における生徒の姿勢や思考の変化を明らかにするとともに、定量的なデータとの相関を調べることで、SSHの取組が生徒にどのような影響を与えているかを明確にする方策を考えていく。

### (3)「多様な他者との関わり」を通した育成

探究活動としてゼミ活動に取り組み、学年間連携のゼミ構成、ゼミ推進部とゼミ長会議による運営体制の構築、外部人材メンターとの連携が定着している。卒業生メンターの活用が課題であったため、7年度の発表会では卒業生の発表ブースを設けて大学での研究成果を伝えるとともに、卒業生メンターが関わりやすい環境を構築した。釜石市教育魅力化コーディネーターについては、今後も協力してゼミ活動や774プロジェクトを推進することで取組の充実を図る。

### (4)「主体性・科学的探究能力」の育成

教科横断的な視点と科学的探究能力を育成する視点を重視した授業について、一層の組織的な推進を行う。全教科で組織的に推進するために教務課と連携し、各教科で共通のキーワードを設定し各教科の切り口で問いを立てたり分析の手法を示したりすることで、教科を超えた学びの機会を創出する。また、探究活動で獲得した知識を他教科の学習に応用できるよう、教員間での情報共有を強化し、学年ごとのカリキュラム設計に探究活動を組み込むことを推進する。

### (5)「国際的視野」の育成

国際関係のプログラムはこれまでに比べ格段に活動内容が増え、1日体験留学やSSH台湾海外研修等を通して生徒の国際的視野を育成できているが、内容の精選を図りながらより良いプログラムに改善することが課題である。併せて、「科学英語」「課題研究英語発表会」「1日体験留学」「SSH台湾海外研修」「United World Collegeとの共同研究」「ペンパルプロジェクト」等の教材や取組過程をとりまとめ、情報発信に取り組む。

### (6) 成果の普及

これまでゼミ内での活動についての共有から、より広範囲で成果を共有するために、研究の過程を可視化し掲示することで、生徒間で進捗や活動内容を認知できる環境を整える。発表会等の資料はTeams内で相互に閲覧することはすでに実践しているが、これを推進し過年度のものも含めて参考にしやすいようにデータベース化を進める。授業実践掲示板については、探究型授業の優れた実践例を教員間で共有し、それを授業改善につなげるために有効活用し、それらを定期的にアップデートする。防災教育については、防災ゼミなどのゼミ活動では研究テーマになっており、ボランティア活動、生徒会活動等でも防災に関連した活動がみられており、科学的な人材育成と結びつける方策を検討する。

## ② 実施報告書（本文）

### V SSH中間評価において指摘を受けた事項のこれまでの改善・対応状況

#### 1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

#### 2 中間評価における主な講評と改善・対応状況

##### (1) 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている

- ・卒業生メンターの活用について、実効性を有するように一層の推進を期待する。
- ・Ⅲ期にもかかわらず、SSHの取組に意義を感じていない教員がおり、全校体制の取組になっていない点は改善が必要である。
- ・Ⅲ期でありながら、運営指導委員会の「どういった人材を目指したいのかがわかっていない」との指摘について、改善に向けて対応することが必要である。
- ・成果の分析について、STEAMの項目があるが、STEAMをどのように捉えアンケートに回答しているのかということが不明確であるため、改善が必要である。

##### 【改善・対応状況】

- ・6年度から卒業生講演会、加えて7年度は大学院生等によるポスター発表や指導助言の依頼など卒業生メンターの活用を推進した。SSHの意義に対する認識に差が生じないように教員がSSHの意義を体感できる機会を増加させ、SSH事業についての校内研修や、成果発表の場を設ける取組を強化した。STEEL人材の定義とその達成の評価を確認し、アンケート設計を見直した。

##### (2) 教育内容、指導体制等に関する評価

研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている

- ・教科横断的な探究活動が、担任する授業での部分的な取組にとどまらず、全教科で組織的に推進するための工夫を期待する。
- ・OPPA (One Page Portfolio Assessment) による生徒との対話によって読み取る質的な評価と、アンケート等の量的な生徒の変容評価とを関連付けた評価開発を期待する。
- ・釜石市教育魅力化コーディネーターによって、SSHの取組を更に充実することを期待する。
- ・教育課程の特例が、SSHの研究課題の解決にどのように生きているのかが分析されていない点について改善が必要である。

##### 【改善・対応状況】

- ・全教科で組織的に推進するため、SSH推進室と教務課が協力して進める。教育課程の特例が、SSHの研究課題の解決にどのように生きているのかの分析を進める。

##### (3) 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている

- ・外国語での活動やイギリスのUnited World Collegeとの共同研究の成果を基に、共同研究を推進するための手法等を取りまとめ、公開することを期待する。

##### 【改善・対応状況】

- ・共同研究を進めた本校の手法等を取りまとめ、公開する。

##### (4) 成果の普及等に関する評価

研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている

- ・職員内だけでなく、生徒間でもこれまでの成果をより一層活発に共有する仕組みについて工夫することを期待する。
- ・授業実践掲示板で探究授業を紹介することによる、授業改善の共有や探究授業の普及に関して効果検証することを期待する。
- ・防災教育に国際的な貢献が期待できる立ち位置にあると考えられるため、今後の取組を期待する。

##### 【改善・対応状況】

- ・発表会等の資料をTeamsに置き、生徒間でも相互に閲覧できるようにした。過年度のものも含めて参考にしやすいようにデータベース化を進める。防災教育については、防災ゼミなどのゼミ活動では研究テーマになっており、ボランティア活動、生徒会活動等でも防災に関連した活動がみられており、科学的人材育成と結びつける方策を検討する。

##### (5) 管理機関の取組と管理体制に関する評価

研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている

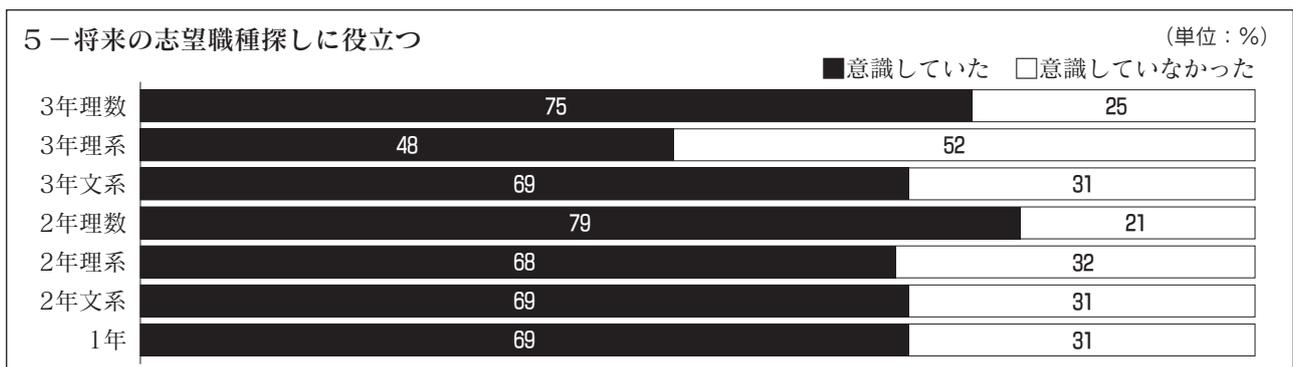
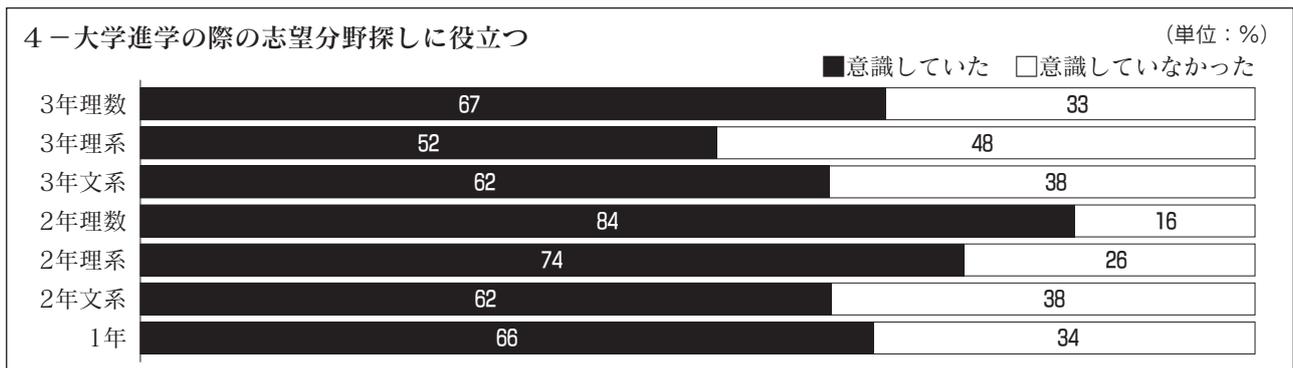
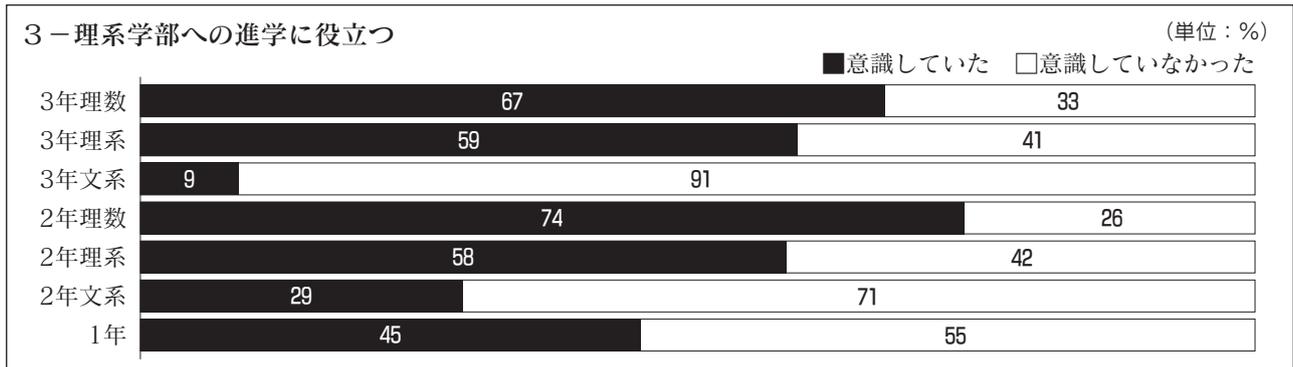
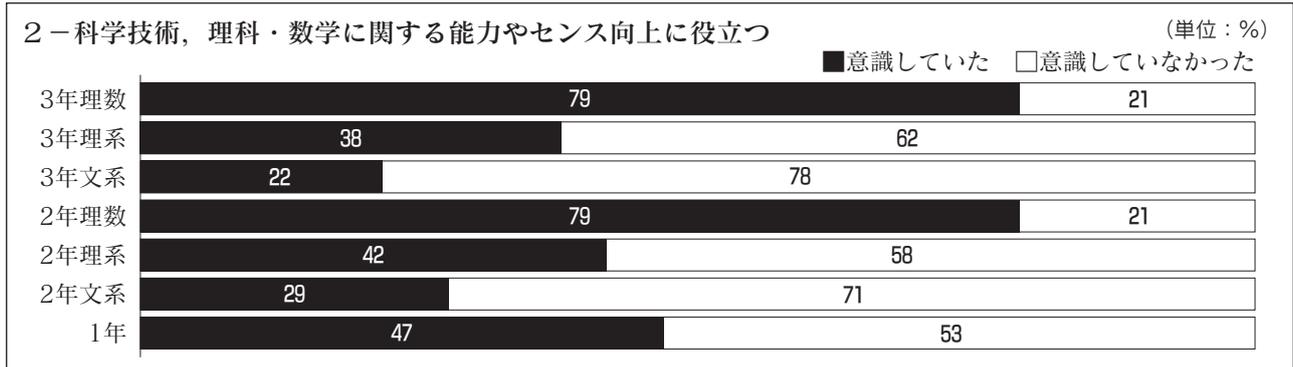
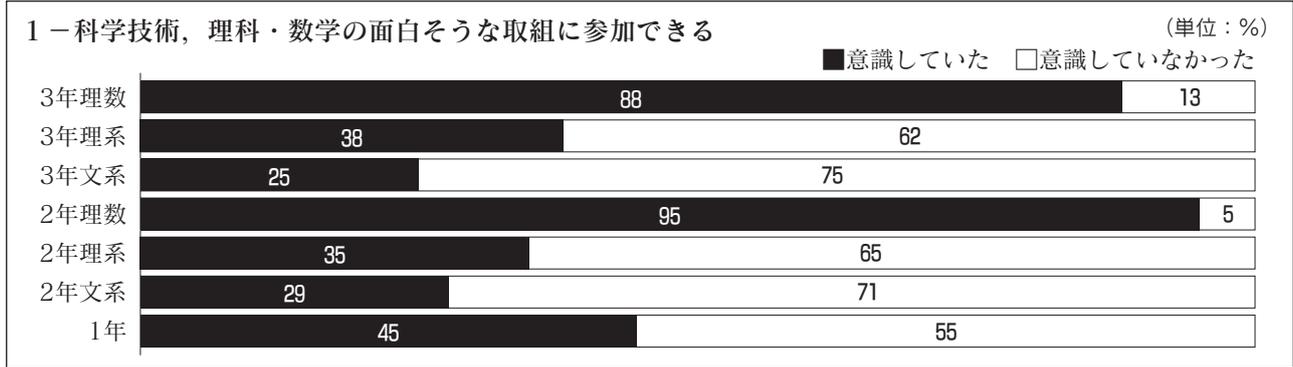
- ・県のHPに釜石高校のリンクが掲載されているが、域内だけでなく域外の学校に対しても成果が普及されるよう、活用しやすい形で取組を紹介することを期待する。

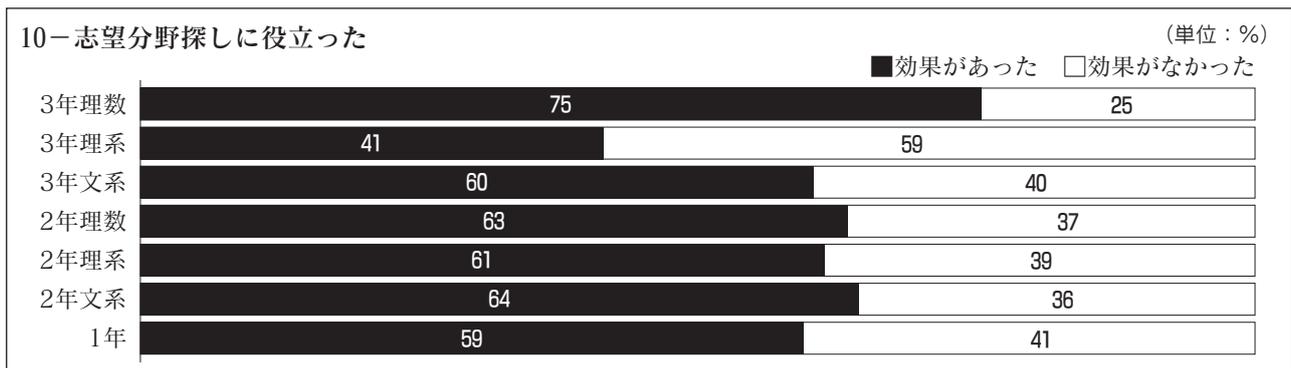
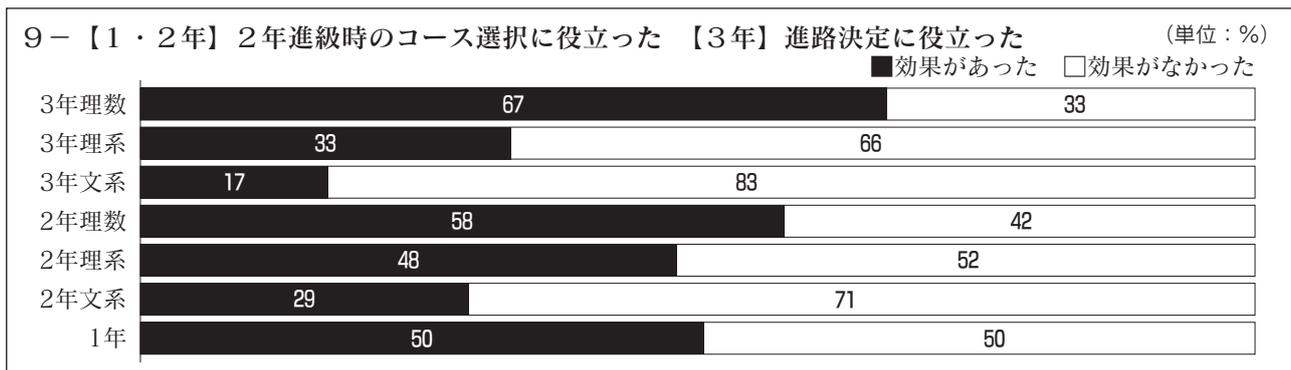
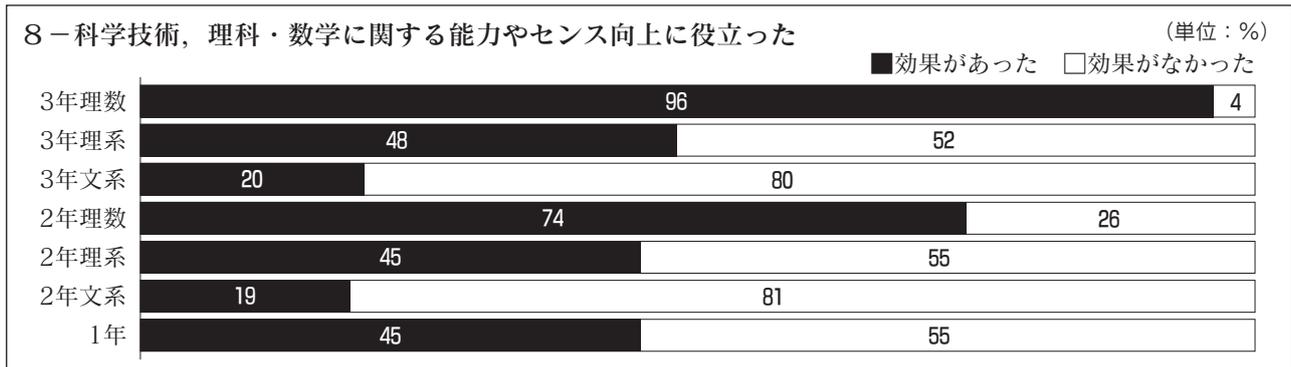
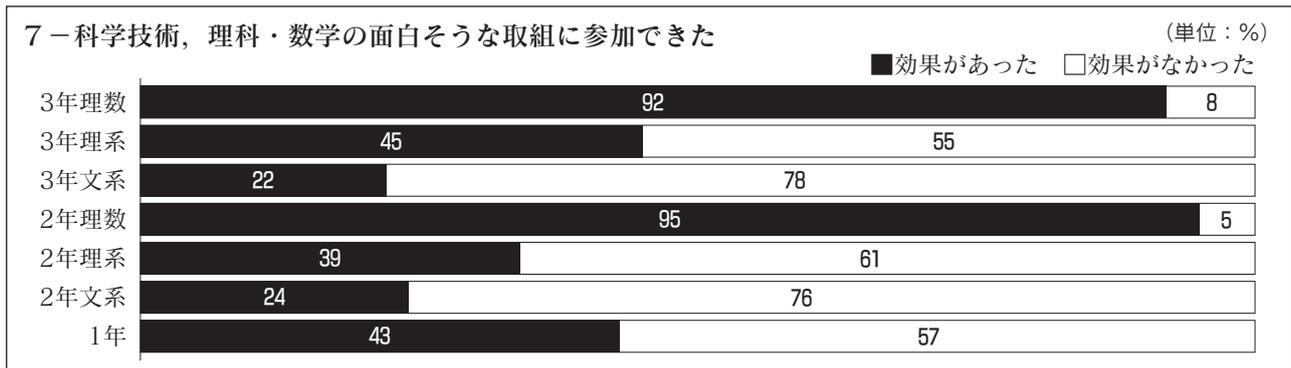
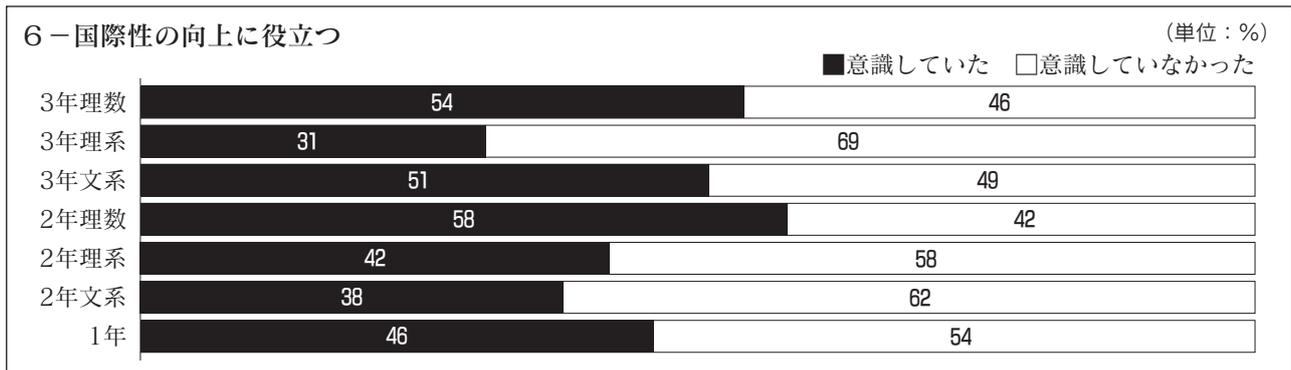
##### 【改善・対応状況】

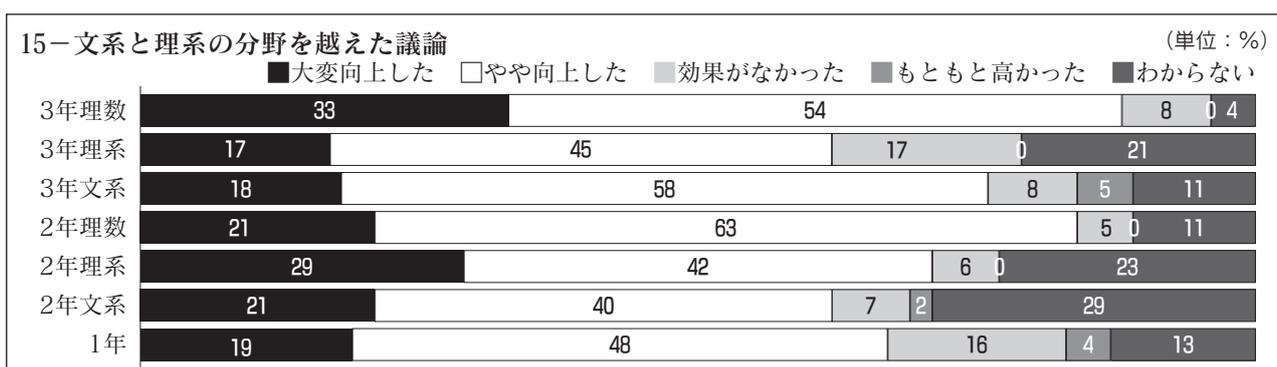
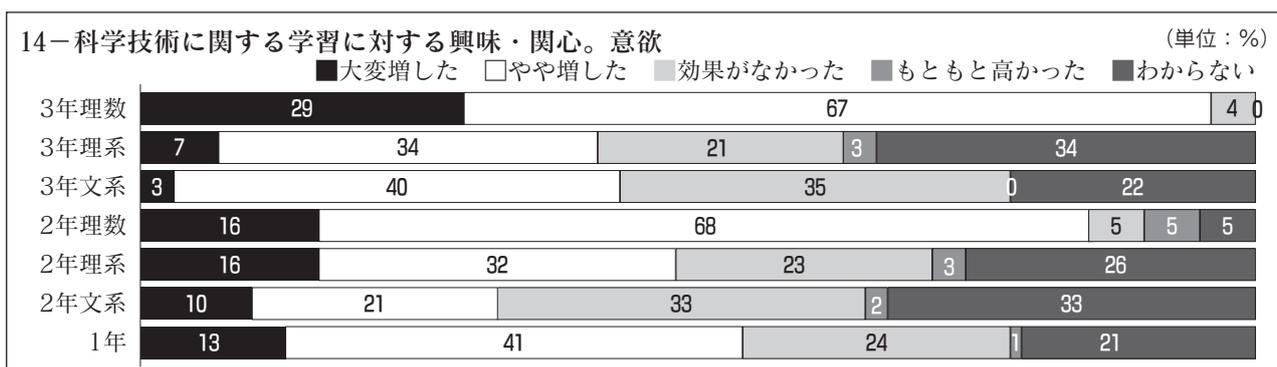
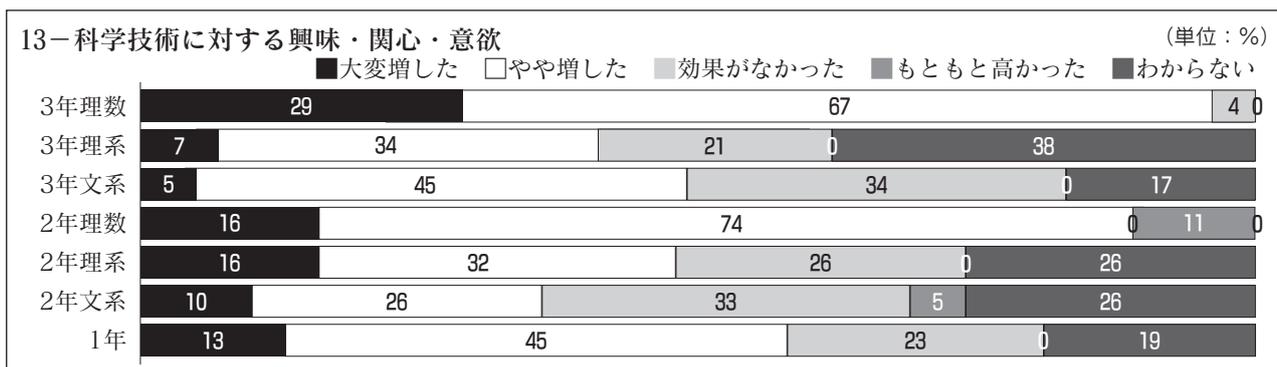
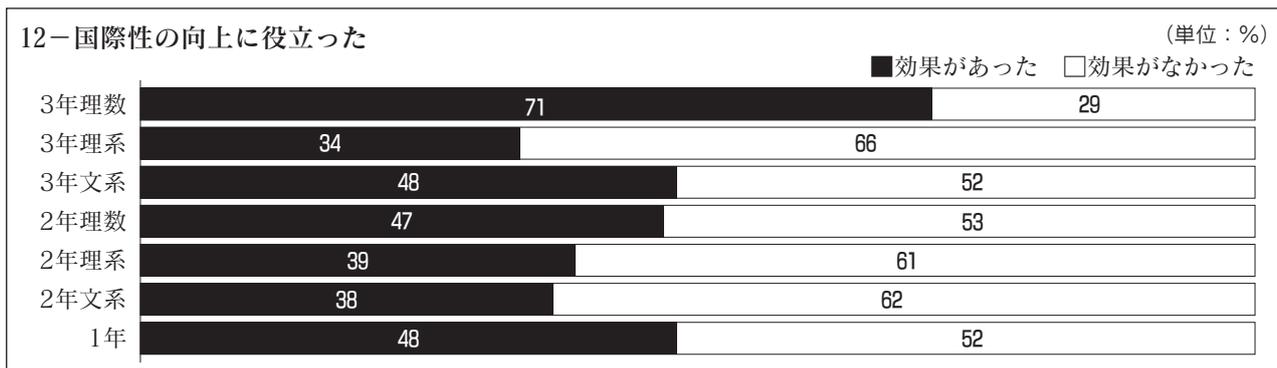
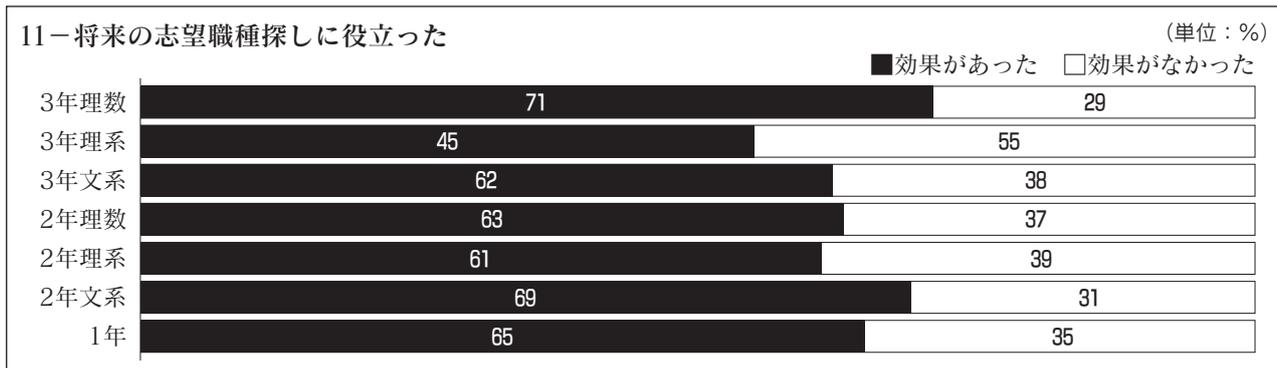
- ・引き続き、管理機関に支援や協力をお願いする。

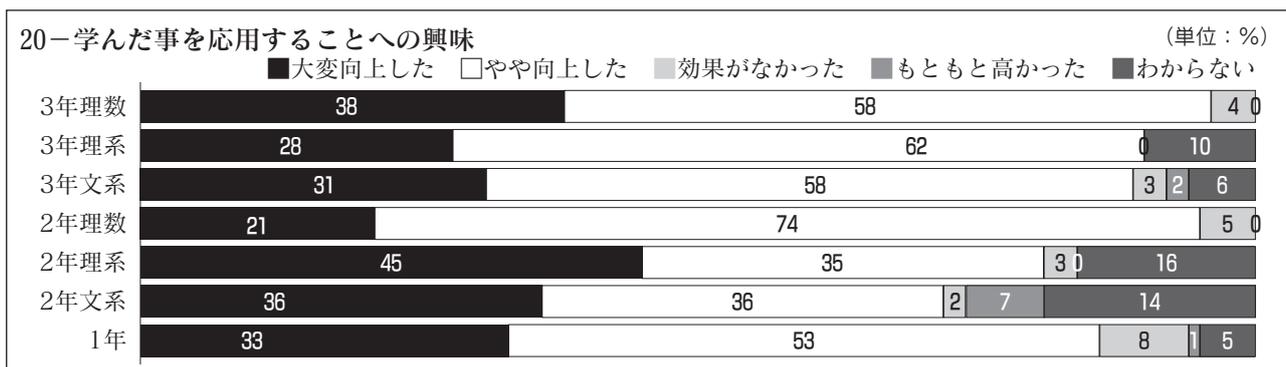
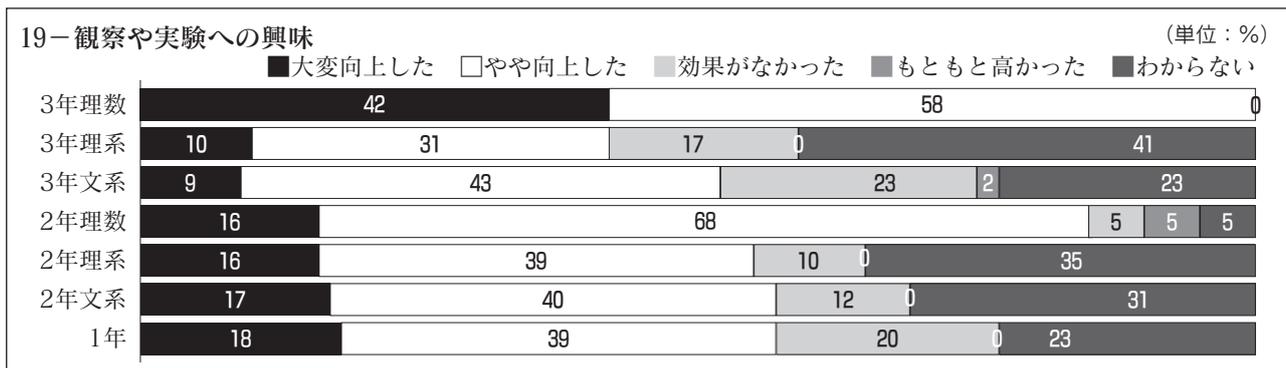
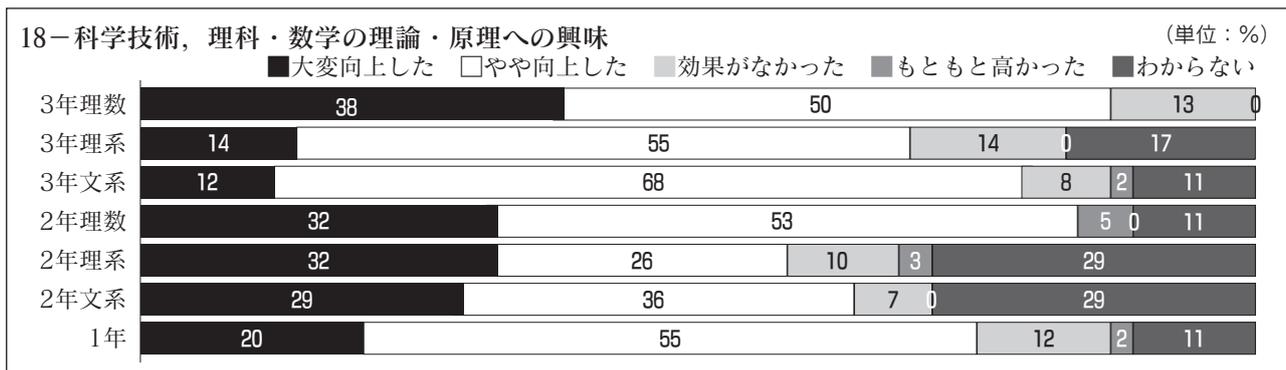
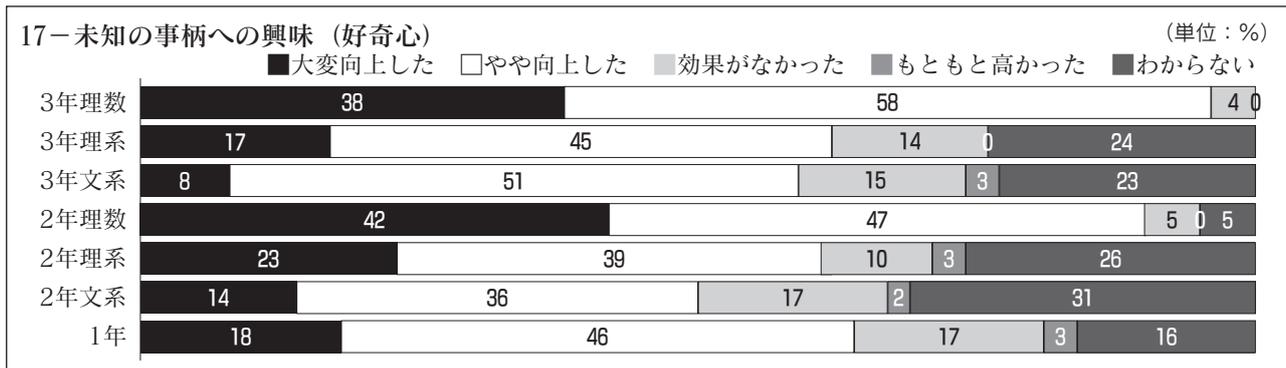
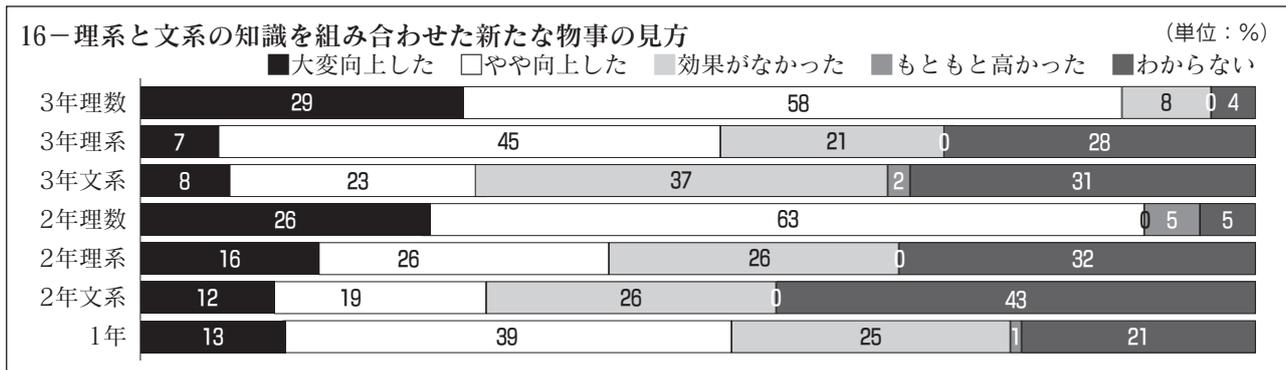
### ③ 関係資料

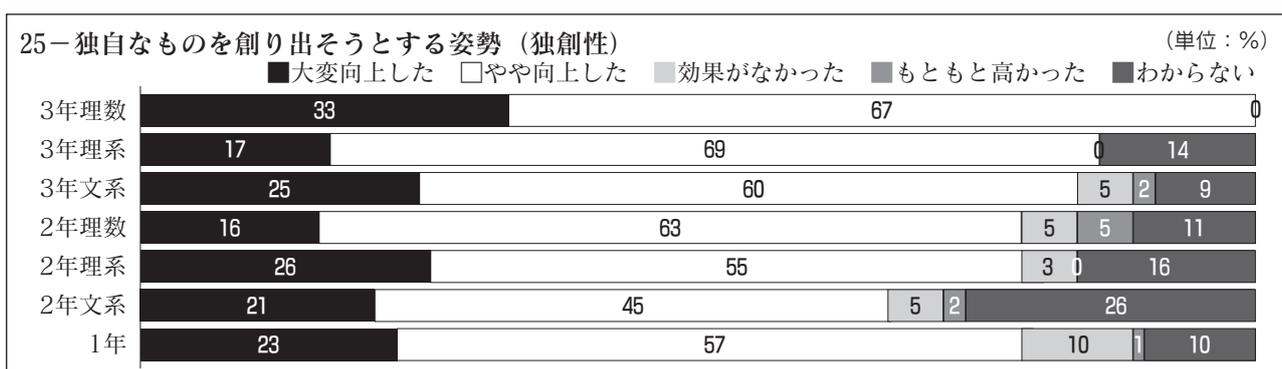
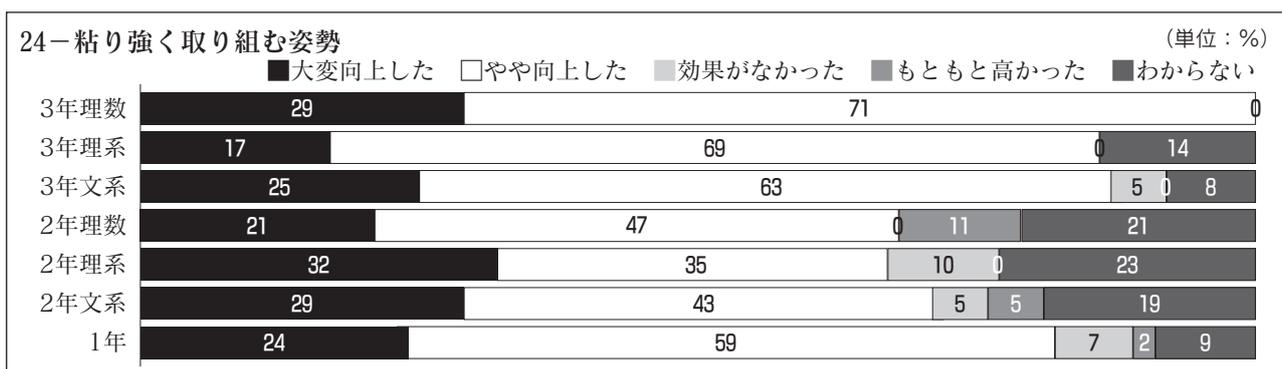
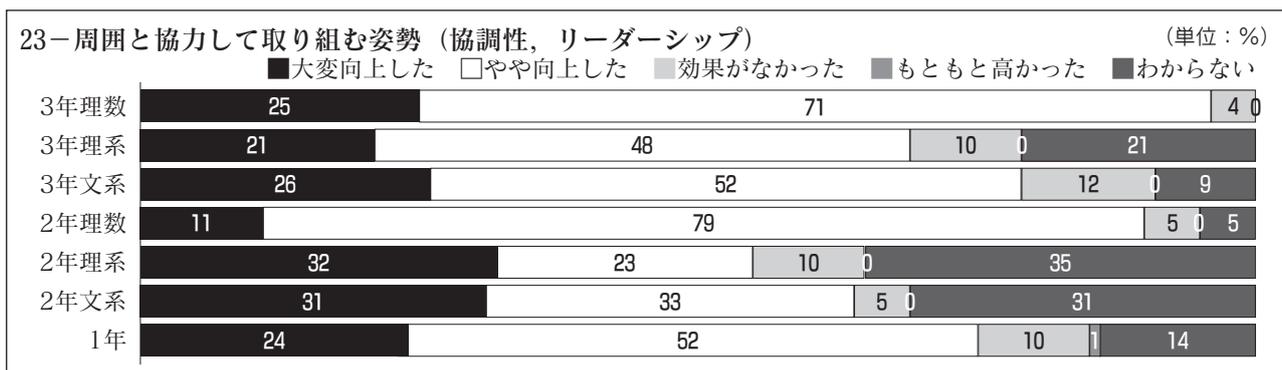
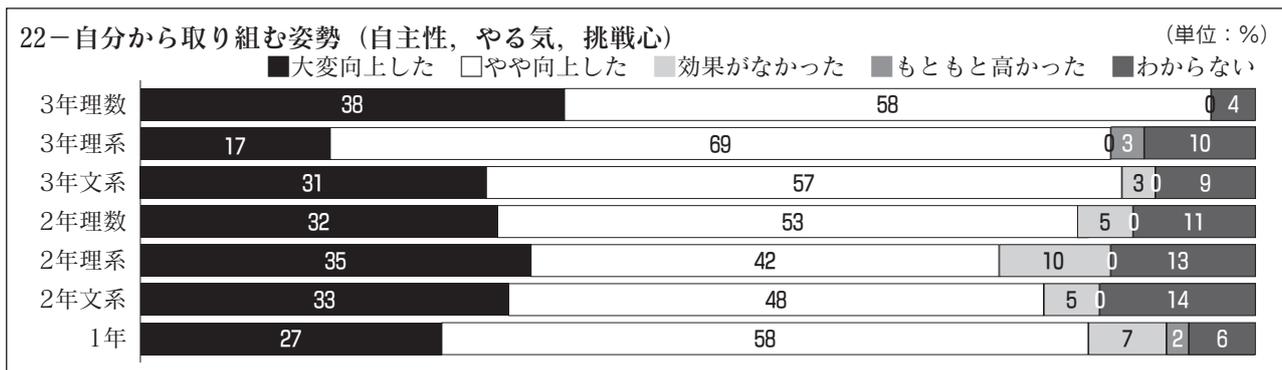
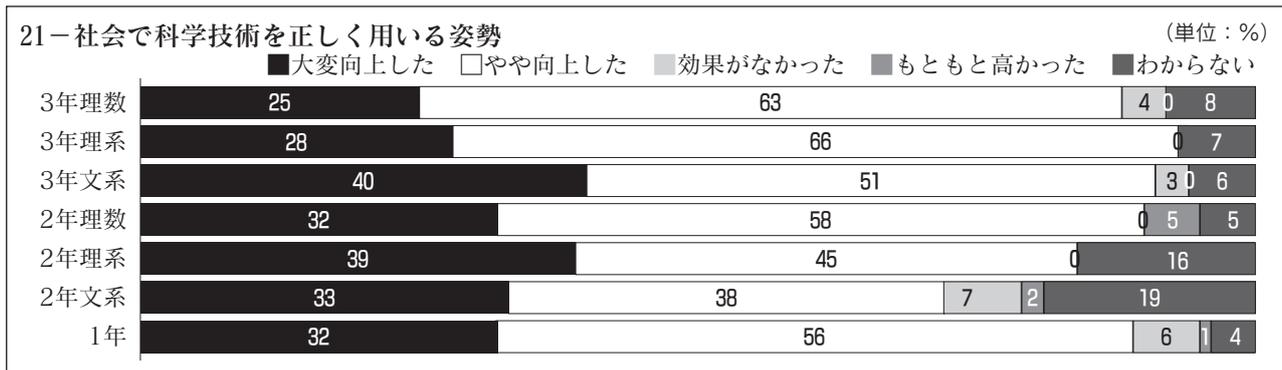
#### 【関係資料1】 令和7年度 SSH活動に関する意識調査

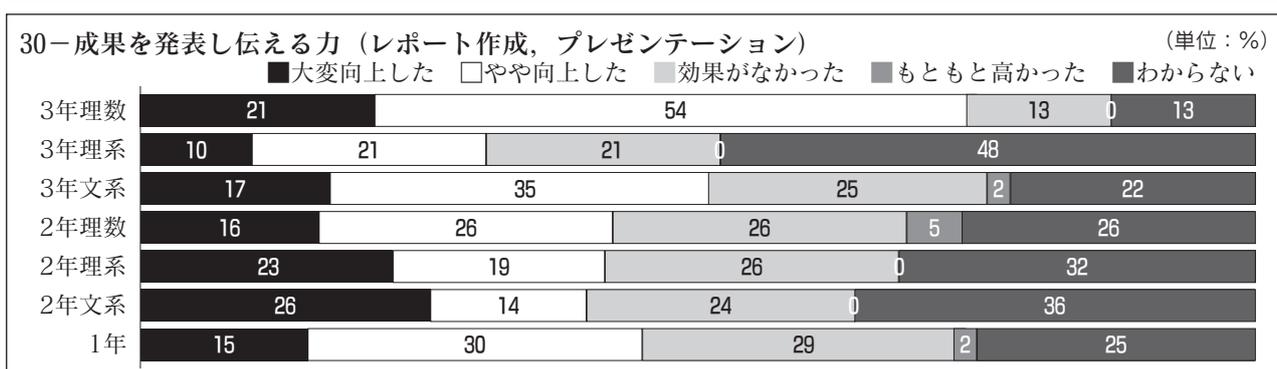
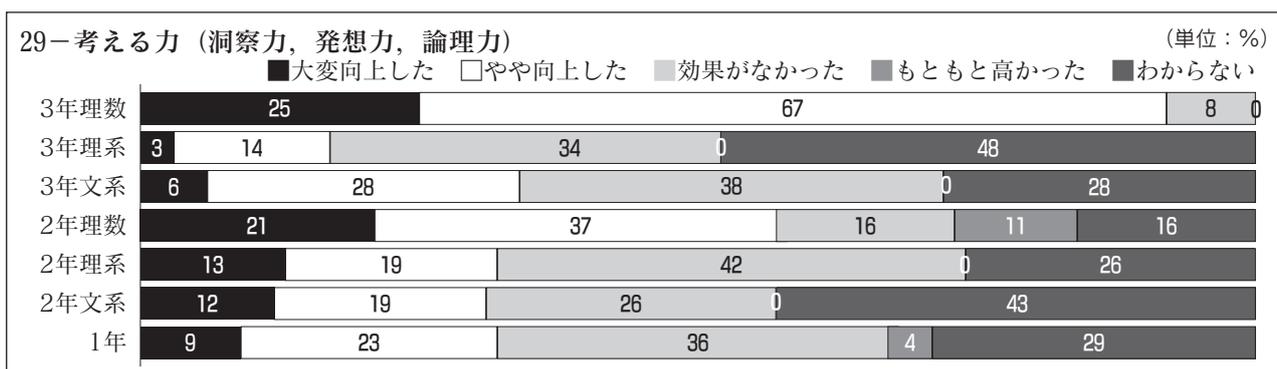
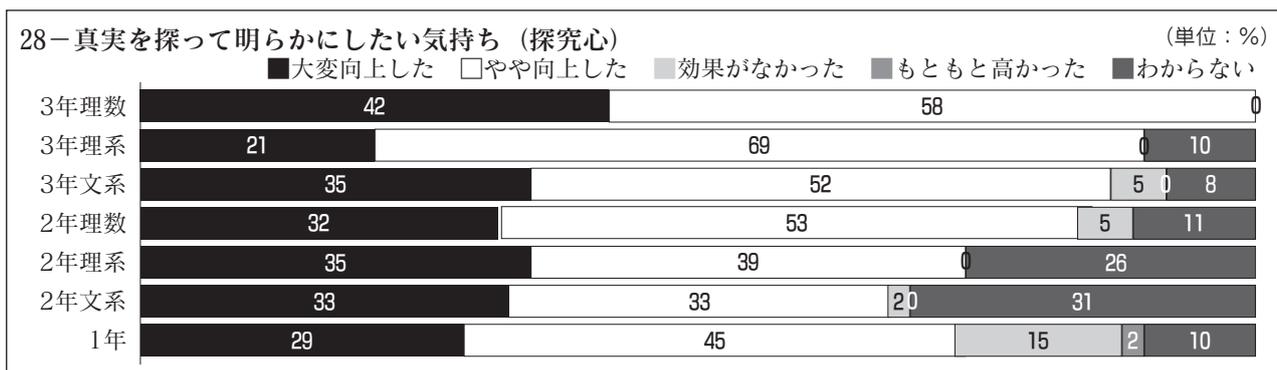
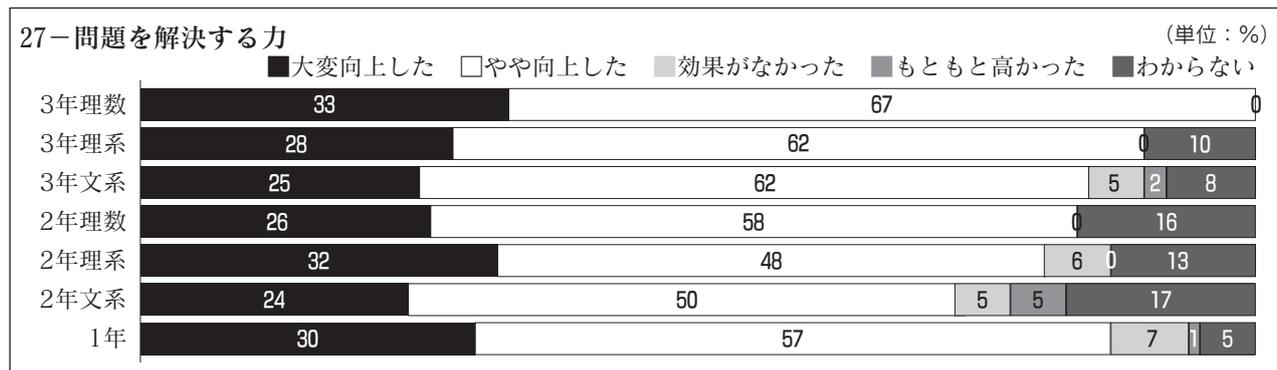
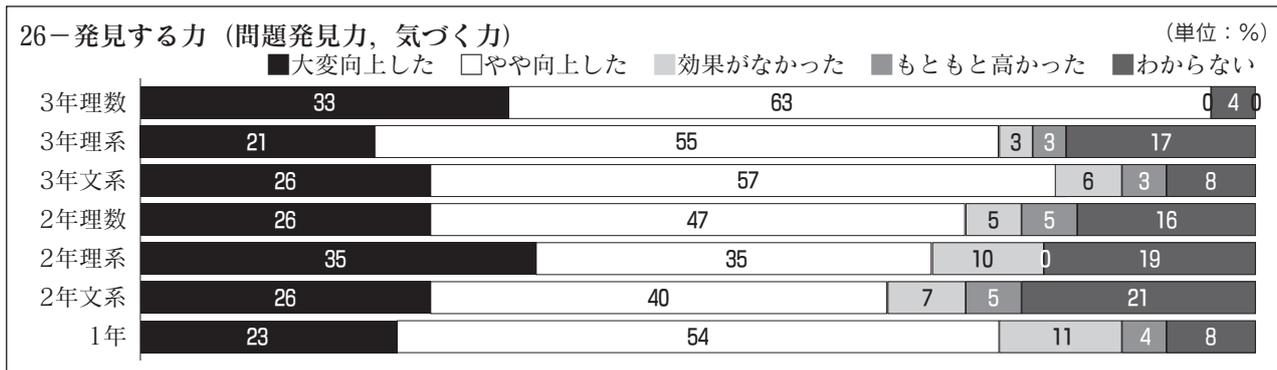


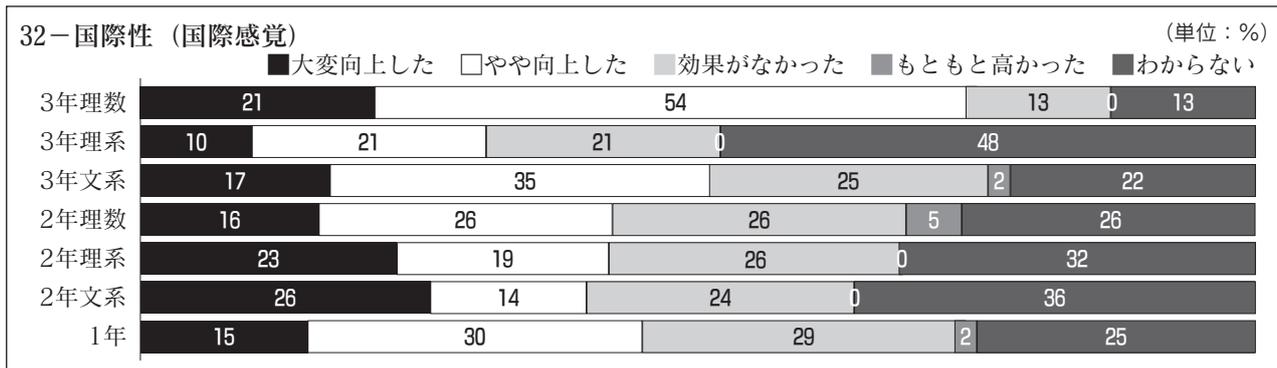
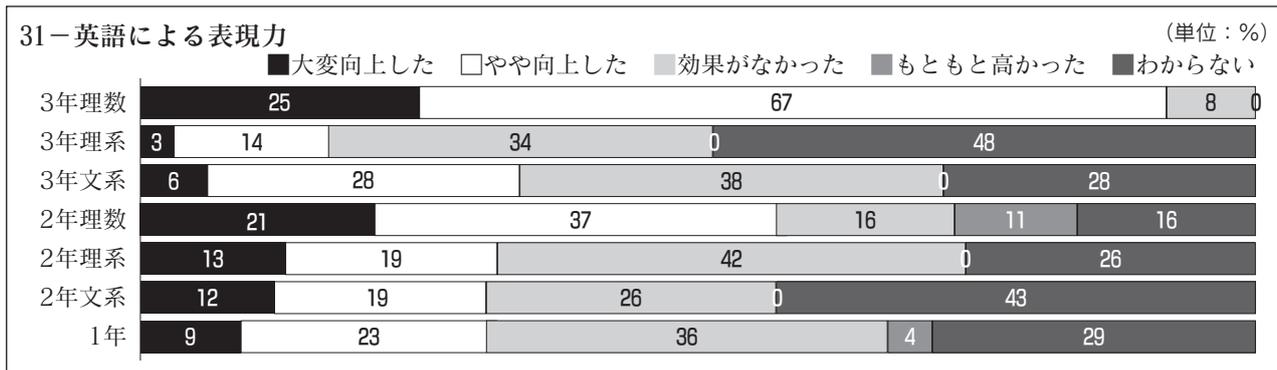












【関係資料2】 令和7年度 STEELアンケート調査結果

(3学年：ゼミ終了時(9月) 1, 2学年：中間発表会後(10月), ゼミ内発表会後(1月))

項目	3学年普通科	3学年理数科	2学年普通科 (10月)	2学年普通科 (1月)	2学年理数科 (10月)	2学年理数科 (1月)	1学年 (10月)	1学年 (1月)
STEAM								
勉強していて、面白い、役立つ、と思う教科(分野)がある	4.82	5.36	4.67	4.77	4.84	5.53	4.51	5.00
組み合わせることで、面白い、役に立つ、理解し易いなどと思う教科(分野)がある	4.55	5.14	4.52	4.49	4.88	5.05	4.34	4.77
教科(分野)の組み合わせによって、興味が増す、または何か世の中の役に立つ事例を説明できる	4.00	4.77	3.98	4.29	4.16	4.89	3.93	4.27
本やニュース、または普段の生活の中で、教科の知識がよぎることがある	4.48	4.91	4.09	4.66	4.52	4.74	4.27	4.67
教科の知識を、進路の調べものや、探究活動に活かしている	4.09	4.64	3.66	4.21	4.36	4.84	3.85	4.34
教科の知識が、自身の希望する進路や探究テーマの中に生きている事例を説明できる	3.80	4.36	3.41	4.01	4.04	4.11	3.49	3.87
Education								
ゼミの時間において、自分たちの探究テーマに関する議論は活発である	4.54	5.00	4.08	4.21	4.52	4.74	4.17	4.68
授業時間や授業以外の自習において、友人との勉強に関する議論は活発である	4.20	4.36	3.64	4.24	3.88	4.42	4.10	4.62
自分よりも知識を持っている人と積極的に対話し、知識を得ようとしている	4.33	4.64	3.92	4.17	4.20	4.42	4.30	4.95
学校外のイベントや講演会やボランティアに参加して知見を得ている	3.65	3.82	3.02	3.48	3.00	3.58	2.75	3.07
先輩、後輩、または校外の生徒の探究で、重要な、面白い、と思うものがある	4.25	4.73	3.69	4.06	4.00	4.42	4.18	4.34
自分の進路目標または探究テーマについて、熱意や重要性、面白さを伝えることができる	4.23	4.68	3.80	4.01	3.96	4.42	3.66	4.17
Entrepreneurship								
世の中の現状や課題をよく調べている	3.88	4.41	3.26	3.80	3.84	4.21	3.57	4.09
すでに世の中で行われている活動や研究をよく調べている	3.44	3.86	3.17	3.74	3.56	4.11	3.29	3.75
実験結果や聞き取り調査結果に対し、科学的に適切な方法で分析し、新しい気づきを得ようとしている	3.59	4.18	3.21	3.60	3.84	4.21	3.29	3.78
世の中の課題や未知の事象について取り組んでいる人や組織(大学や企業)を知っている	3.45	3.82	3.08	3.46	3.52	4.16	2.99	3.47
アイデアを生み出し、実践し、改善することを繰り返して(探究サイクル)、探究や勉強に臨んでいる	3.85	4.45	3.47	3.85	3.80	4.32	3.51	4.02
人生をかけて解決したい課題や解明したい事象、または創造したいものがある	3.41	3.55	2.87	3.56	3.64	4.05	3.01	3.47
Local								
地域の資源(環境や人材)を活かして探究している	3.79	4.36	3.17	3.66	3.68	4.32	3.15	3.69
釜石、または自分が暮らす地域の魅力を説明できる	4.21	4.41	3.30	3.83	3.76	3.68	3.80	4.29
釜石、または自分が暮らす地域の課題を説明できる	4.64	4.86	3.74	4.10	4.00	4.58	4.21	4.63
global								
世界のある地域の魅力を説明できる	3.58	3.86	3.07	3.56	3.76	4.05	3.48	4.12
世界のある地域の課題を説明できる	3.57	4.00	2.95	3.61	3.40	4.05	3.47	3.97
世界全体が抱えている課題を説明できる	3.96	4.59	3.33	3.79	3.96	4.21	3.89	4.33
世界のニュース、または大学や企業が組織が発信している情報を、見聞きしている	3.68	4.14	2.98	3.34	3.48	4.00	3.41	3.82
身近な課題解決に臨むとき、海外の情報にも必要性を感じる	3.84	4.64	3.52	3.68	4.04	4.21	3.67	4.05
自分の人生において、海外との交流は大切である	4.15	4.77	3.53	3.76	4.28	4.58	3.93	4.27
探究や授業								
探究活動(ゼミ)は楽しい			4.33	4.40	4.64	5.05	4.38	4.61
探究活動(ゼミ)に熱心に取り組んでいる			4.38	4.34	4.76	4.89	4.48	4.86
自分の探究テーマへの興味・関心は高い			4.44	4.44	4.72	4.89	4.50	4.75
教科の勉強は楽しい			3.74	4.13	4.32	4.79	4.00	4.29
教科の勉強に熱心に取り組んでいる			3.86	4.21	4.28	4.68	4.16	4.53
探究基礎(木曜6校時)での学びや活動を、探究活動(ゼミ)に活かしている			4.12	4.29	4.72	4.63	4.28	4.52

【関係資料3】 S S 総探（年間指導計画）

月日	行事予定	校時数	1年					
			S S 総探Ⅰ	SS総探基礎・SS総探Ⅱ	SS理数総探基礎・SS理数総探Ⅱ	SS総探Ⅲ	SS理数総探Ⅲ	
1 4/10木		6 7	2	全体・学年オリエンテーション アイスブレイク			6校時：全体オリエンテーション 7校時：ゼミ開き①グループ編成	
2 4/17木		6 7	2	地域科学探究① 物事を知り多角的にとらえる	テーマ検討	テーマ検討	論文作成ガイダンス	論文作成ガイダンス
3 4/24木		6 7	2	地域科学探究② 問いを立てる	探究基礎Ⅱ 研究	探究基礎Ⅱ 研究	論文 研究・論文	論文 研究・論文
4 5/1木		6 7	2	地域科学探究③ 村田先生講演	探究基礎Ⅱ 研究	探究基礎Ⅱ 研究	論文 研究・論文	論文 研究・論文
5 5/8木		6 7	2	地域科学探究④ 仮説と検証方法を立てる	探究基礎Ⅱ 研究	探究基礎Ⅱ 研究	論文 研究・論文	論文 研究・論文
6 5/15木	☆1年コース別フィールドワーク ☆3年理数科英語発表会 (視聴覚&石楠花)	5 6 7	2	地域科学探究⑤ ☆コース別フィールドワーク 行政、産業、学問、地域、環境	普通授業 研究	普通授業 英語プレ発表会 (+普通科希望者)	普通授業 研究・論文	普通授業 英語プレ発表会
7 5/22木	特別時間割	5 6	2	地域科学探究⑥ フィールドワーク振り返り	探究基礎Ⅱ 研究	探究基礎Ⅱ 研究	論文 研究・論文	論文 研究・論文
8 5/29木		6 7	2	地域科学探究⑦ ゼミ見学・発表練習	探究基礎Ⅱ 研究	探究基礎Ⅱ 研究	論文 研究・論文	論文 研究・論文
9 6/5木	☆3年理数科英語発表会 (石楠花ホール)	5 6 7	2	普通授業 地域科学探究⑧ 4月からの取組発表会・振り返り	普通授業 研究	英語発表会 (+普通科希望者)	普通授業 研究・論文	英語発表会
10 6/19木	3年論文提出①	6 7	2	ゼミ初参加・ゼミ開き②	ゼミ初参加・ゼミ開き② 研究	ゼミ初参加・ゼミ開き② 研究	ゼミ初参加・ゼミ開き② テーマ検討メンター	ゼミ初参加・ゼミ開き② テーマ検討メンター
11 6/26木	芸術鑑賞会	2 3	2	探究基礎Ⅰ 研究	研究	研究	論文・外部コンテスト準備 1年生と研究	論文・外部コンテスト準備 1年生と研究
12 7/3木	3年論文提出②	6 7	2	探究基礎Ⅰ 研究	研究	研究	論文・外部コンテスト準備 1年生と研究	論文・外部コンテスト準備 1年生と研究
13 7/10木		6 7	2	探究基礎Ⅰ 研究	研究	研究	論文・外部コンテスト応募 1年生と研究	論文・外部コンテスト応募 1年生と研究
14 7/17木		6 7	2	探究基礎Ⅰ 研究	研究	研究	論文・外部コンテスト応募 1年生と研究	論文・外部コンテスト応募 1年生と研究
15 7/24木	三者面談	3 4	2	研究	釜フェス準備	釜フェス準備	1年生と研究	1年生と研究
8/30水	☆釜フェス	3 4	行事	釜フェス（釜石高校 各教室）				
16 8/21木		6 7	2	探究基礎Ⅰ 研究	探究基礎Ⅱ 研究	探究基礎Ⅱ 研究	自己分析振り返りワーク 1年生と研究	自己分析振り返りワーク 1年生と研究
17 9/4木	3年まとめ発表会	6 7	2	探究基礎Ⅰ まとめ発表会	探究基礎Ⅱ まとめ発表会	探究基礎Ⅱ まとめ発表会	まとめ発表会準備 まとめ発表会	まとめ発表会準備 まとめ発表会
18 9/18木		6 7	2	研究	ポスター作成・研究	ポスター作成・研究		
19 9/25木	～9/26 ポスター提出 (ゼミ内)	6 7	2	研究	発表練習	発表練習		
20 10/2木	☆SSH課題研究中間発表会	6 7	2	SSH課題研究中間発表会				
21 10/9木		6 7	2	研究	研究	研究		
22 10/16金		6 7	2	研究	研究	研究		
23 10/23木		6 7	2	研究	研究	研究		
24 10/30木		3 4	2	研究	研究	研究		
25 11/6木		6 7	2	研究	研究	研究		
26 11/20木		6 7	2	研究	研究	研究		
27 11/27木		6 7	2	「先輩に学ぶ」講演会	(修学旅行)	(修学旅行)		
28 12/8木		6 7	2	研究	研究	研究		
29 12/11木		6 7	2	研究	研究	研究		
30 12/18木		6 7	2	研究	研究	研究		
31 12/25木	終業式	3 4	2	研究	研究	研究		
32 1/15木		6 7	2	研究	研究	スライド作成・研究		
33 1/21水	☆理数科課題研究校内学会	5 6 7	2	授業 ポスター作成・研究	授業 ポスター作成・研究	校内学会（石楠花ホール）		
34 1/29木	～1/30 ポスター提出 (ゼミ内)	6 7	2	ポスター作成・研究	ポスター作成・研究	ポスター作成・研究		
35 1/30金	☆ゼミ内発表会	6 7	2	ポスター発表 (ゼミ内・評価)	ポスター発表 (ゼミ内・評価)	ポスター作成・研究		
36 2/12木	2/12 ポスター完成データ提出 2/13 口頭発表データ提出	6 7	2	発表練習	発表練習	発表練習		
37 2/14土	☆SSH課題研究発表会 (釜石市民ホールTETTO)	終日	7	SSH課題研究発表会・研究成果報告会（TETTO） ポスター発表（エントランス、2階通路）、口頭発表（Hall A）				
38 2/26木	☆SSH台湾海外研修報告会	5 6	2	SSH台湾海外研修報告会 発表振り返り、アンケート 新年度ゼミガイダンス	SSH台湾海外研修報告会 発表振り返り、アンケート	SSH台湾海外研修報告会 発表振り返り、アンケート		

※後期は授業

【関係資料4】 S S 総探（研究テーマ一覧）

「ゼミ活動」《普通科》

No.	ゼミ名	研 究 テ ー マ	学年
111	人文・国際	日米ホラー映画における恐怖表現の構造比較	1年
112		「察する文化」から「伝える文化」へ ～異文化間での誤解を減らすための工夫～	1年
113		学生の漢字習得率の減少について	1年
114		日本語学習・コミュニケーション・話しやすい日本語について	1年
115		文化的差異の影響を韓国人との対話にどう活かすか	1年
116		日本人の特性～長所と短所の両面から考える～	1年
117		外国人と関わっていく上で私達はどのようにアプローチしていくべきか	1年
118		ディズニープリンセス映画から女性像の変化を読み解く	1年
121		釜石市における災害時の外国人の支援について～地域共生に向けて～	2年
122		パリに行こう「ターゲット層に訴える広告表現の分析と旅程の提案」	2年
123		ディズニー映画と時代変化の関係性について読み解く	2年
124		色彩が人の感情に与える影響	2年
125		「第一印象」の分析 ～ルッキズムの時代を生き抜くために～	2年
126		擬人化は学習意欲を向上させる？～「ヘタリア」の分析をとおして～	2年
127		『鬼滅の刃』から学ぶ自己肯定感向上方法	2年
128		イタリア軍の魅力 ～第二次世界大戦時を中心として～	2年
131		コミュニケーションアプリで不快な思いをさせないようにしよう	3年
132		太宰治『人間失格』の誕生と評価	3年
133		本屋との関わりから考える、高校生による地域活性化の方法	3年
134		アメリカ映画と現実との繋がりから考えるこれからのアメリカ映画	3年
135	スイスから学ぶペット飼育環境の向上	3年	
136	郷土芸能の魅力を言葉が通じない相手に伝えるにはどんな方法があるのだろうか	3年	
137	日本のふるさと発、世界行き～高校生の私たちができる地域の魅力発信の方法とは～	3年	
211	地歴・公民・経済	キャッシュレス化による高校生の経済活動の変化	1年
212		イラン・イスラエルの対立は緩和できるか	1年
213		日中戦争の長期化の原因	1年
214		本能寺の変の真相	1年
221		株式学習ゲームによる株取引のシミュレーション	2年
222		3つの戦いを比較して関ヶ原の戦いは圧勝と言えるか	2年
223		米中は友好関係を築けるのか	2年
224		釜石艦砲射撃の記憶を次世代へ繋ぐ	2年
231		釜石の戦争遺構から考える地域活性化構想	3年
232		「知る」「体験する」「広める」をキーワードとした金融リテラシー講座	3年
233	イスラエル・パレスチナ戦争の原因は何か	3年	
234	長篠の戦いの真実	3年	
235	日米の安全保障から見た台湾有事への備え	3年	
311	理数・情報	薬と食べ物・飲み物の相互作用について	1年
312		どれだけコストをおさえて野菜を作ることができるか	1年
321		ボトルフリップを成功させる	2年
322		香料とエタノールの比率による変化	2年
323		イモリの温度変化	2年
324		日焼け止めの使用頻度における危険性と効果	2年
325		アメフラシの液体から絵の具を作る	2年
331		低コストでヘアオイル・ミルクを作ろう	3年
332	ギア比の公式を用いて効率の良いギア比を見つける	3年	
411	教育・防災	バリアフリーを用いて家の構造を見直し、高齢者の避難の負担を軽減させる	1年
412		音楽で気軽に防災対策をする人は増やせるのか	1年
413		「水」の常備による”もしも”の時への対応	1年
414		釜石市における障がい者の避難課題と支援のあり方	1年
415		地震・津波の教訓を伝承し未来へつなげる	1年
416		学力向上を図るための効果的な学習方法について	1年
417		日常生活に溶け込む防災とは ～フェーズフリー防災の在り方を見直す～	1年
418		子どもに勉強への興味を持ってもらう!	1年
419		誰もが安心して相談できる環境を作るためには?	1年
421		防災アーサー計画	2年
422		勉強の質を上げるためには?	2年

No.	ゼミ名	研 究 テ ー マ	学年
423	教育・防災	第一印象はどのくらい重要？	2年
424		青年期の心理的危機に対し、行動心理学的アプローチで支援する	2年
425		日常生活におけるアサーションの成立条件と聞き手に与える印象	2年
431		日本の高校生のいじめの特徴と対処法	3年
432		有効的な防災学習とは	3年
433		大人の防災意識を高める	3年
434		災害時や避難時身近にあるもので応急手当ができるようにする	3年
435		安全に暮らせる住まいと防災	3年
511	芸術・デザイン	人を魅了する写真の構造と技術	1年
512		地震に強い建築構造	1年
513		ジャケットデザインはどうやって音を視覚化しているのか	1年
514		ピクトグラムの制作・提示による、認識と理解度について	1年
515		バンドTシャツから分かる音楽との関係性	1年
521		ゲームを知らない、興味がない人でも引き込むことができる音楽を作るには	2年
522		音楽が与えるリラックス効果	2年
523		校歌をアレンジしよう	2年
524		アニメの作画の進化について	2年
525		制服のデザインは誰のため？	2年
531		SNSのヒット曲から考える若年層の音楽の流行と今後に関する考察	3年
532		コスメのパッケージデザインから紐解く流行の変化～2000年前後と2023年前後を比較して～	3年
533		分かりやすいピクトグラムのデザイン考案	3年
534		文字の見た目の変化によって起こる印象の変化とその要因について	3年
611	健康・スポーツ科学	音楽を聴いて運動パフォーマンスが向上するのはうそ！？	1年
612		ケガをしない体づくり`ケア、トレーニングメニューをつくる`	1年
613		ラグビーの走りを速くしよう！	1年
614		協力型と競争型のスポーツ遊びが、子どもの行動や感情に与える影響の違い	1年
615		誰でも続けられる筋トレ、ストレッチ	1年
616		最高到達点を上げるためには？	1年
621		機能回復ストレッチについて	2年
622		試合直前のルーティン（呼吸＋イメージ）が競技パフォーマンス（精度・安定性）を向上させれるか	2年
623		朝の運動は集中力を高めるのか	2年
624		お菓子が支える美容と心の健康	2年
631		一緒に運動をして子どもたちと仲良くなろう	3年
632		地域の食材を使って体作りに適したメニューを考える	3年
633		栄養素を摂取することで睡眠にどのような影響が出るのか	3年
634		運動能力向上に必要なことについて～運動能力へのコーディネーショントレーニングと栄養素の関係～	3年
711	保健	学校での血圧計設置による健康意識向上の効果	1年
712		授業中の眠気を減らすためにできること	1年
713		子育てしやすい街にするためにわたしたちができること	1年
714		食事・運動による骨密度と健康との関連	1年
715		糖尿病予防の食生活	1年
721		病院に対する恐怖心の改善	2年
722		学校生活におけるピアサポートの効果検証	2年
723		足をつらないために必要な栄養素	2年
724		がん予防レシピによる健康意識向上の介入	2年
731		味噌とだしの割合による高血圧対策の可能性	3年
732		人口減少が進む釜石に課題と解決方法を考える	3年
733		いじめをする子どもの精神状態	3年
734		高等学校における生徒、職員の望む設備について	3年
735		食事から脳卒中を予防しよう	3年
811	地域	サクラマスの遡上と養殖	1年
812		釜高生に保護猫の譲渡を知ってもらう	1年
813		釜石まるごと地産地消プロジェクト	1年
814		釜石のラグビーと地域活性化	1年
815		クマと共存していくためにできる対策	1年
821		特産物をつかった地域活性化	2年
822		郷土芸能の担い手の現状から考える解消に向けた交流活動と広報活動	2年
823		地域特産物を活用した商品づくり	2年
824		1人暮らしでコミュニケーション不足な団塊世代が健康的な生活を送るには？	2年

No.	ゼミ名	研 究 テ ー マ	学年
831	地域	保護猫の譲渡に向けて	3年
832		釜石市の子どもの孤食を解消するには	3年
833		熊の出没は何と関係しているのか	3年
834		釜石の街を活性化させるには～地域おこし協力隊と協力してイベントを盛り上げる～	3年
835		釜石の特産物を使った商品開発～「ブルーベリーチーズパン」の製品化～	3年
836		釜石はまゆりサクラマスを使って地域活性化	3年

### 「理数ゼミ活動」《理数科》

No.	ゼミ名	研 究 テ ー マ	学年
911	数学・情報	その人に合った勉強方法を提示するアプリを作ってみんなの勉強をサポートしよう	1年
921		理科系の学習アプリの作成～スマホでできる学習環境づくり～	2年
922		高校生向け「無料」数学学習アプリの作成	2年
931		対象物の認識に特化した画像認識AIの作成	3年
932		アプリを作成し、みんなの学習をサポートする	3年
933		球に内接する多面体の体積が最大になるのときの条件の証明	3年
1011	理科①	宮大工の接合技法の強度の検証	1年
1012		自転車による風力発電と、モーターの数の関係	1年
1013		わかめを用いた海洋マイクロプラスチックの回収方法の研究	1年
1021		圧電素子板を用いた効率的な発電場所～校内編～	2年
1022		音波を利用した消火方法の研究	2年
1023		特定外来生物の分布調査とアレロパシーによる植物の生育効率	2年
1031	理科②	化学の力で挑む！カメムシ臭徹底分解メソッド	3年
1032		モルタル模型の形状の違いによる耐久性の評価～3Dプリンター住宅の普及に向けて～	3年
1111		異なる塩分濃度での生分解性プラスチックの分解速度比較	1年
1112		渋柿に紫外線が当たった際の抗酸化物質の変用	1年
1113		赤色光と太陽光の植物成長	1年
1114		深海における巨大化メカニズムの考察～暗所環境における代謝抑制と体サイズの関連性～	1年
1115		生きた乳酸菌の数を保つヨーグルトの保存方法の検証	1年
1121		ミントで殺菌～持続可能な消毒液の開発～	2年
1122		葉酸によるギ酸の分解効果	2年
1123		小枝柿が持つ酸化防止作用について	2年
1124		共生菌に感染させたホウレンソウの塩耐性の比較	2年
1131	生分解性プラスチック製品の海水での分解実験と微生物の培養	3年	
1132	シカのルーメンがもつセルロース分解菌の調査～再現可能な環境下でのセルロース分解実験～	3年	
1133	バイオリギングを用いたアカウミガメの生態調査	3年	

【関係資料5】「科学者への道標」OPP (One Page Portfolio) シート  
 〈科学者養成研修OPPシート〉

<b>科学者への道標</b> ～ 科学者養成研修 編 ～ 科学者の定義 ・理論的ないしは実験的研究を通じて科学知識の探究に努める人々（世界大百科事典） 科学者に必要だと思う能力 目指す科学者像（科学者の定義オリジナルver）	統計学・データサイエンス講座 得た知識 科学の心得 感想	研究施設研修 ～ in アイカマス・ラボ ～ 得た知識 科学の心得 感想	○○○○ ～自分で申込・参加した科学イベント～ 得た知識 科学の心得 感想
	理数科基礎研修 得た知識 科学の心得 感想	プログラミング実習Ⅰ 得た知識 科学の心得 感想	プログラミング実習Ⅱ ～ in 岩手県立大学 ～ 得た知識 科学の心得 感想

〈SS理数総探Ⅱ OPPシート〉

<b>科学者への道標</b> ～ SS理数総探Ⅱ 編 ～ 科学者の定義 ・理論的ないしは実験的研究を通じて科学知識の探究に努める人々（世界大百科事典） 科学者に必要だと思う能力（自動入力） 目指す科学者像（科学者の定義オリジナルNEW ver）	中間発表会 当日までの研究活動反省・印象的な出来事 当日の反省 新たな気づき・今後の展望	TETTO発表会 当日までの研究活動反省・印象的な出来事 当日の反省 新たな気づき・今後の展望	論文執筆 活動反省・印象的な出来事 応募するコンクールの名称 感想
	テーマ検討 活動反省・印象的な出来事 現時点のテーマ名 今後の展望	理数科課題研究校内学会 当日までの研究活動反省・印象的な出来事 当日の反省 新たな気づき・今後の展望	岩手県理数科発表会 当日までの研究活動反省・印象的な出来事 当日の反省 新たな気づき・今後の展望

【関係資料6】

「探究基礎」年間指導計画

- 1 対象 1～3学年 普通科および理数科（木曜日6校時）
- 2 目標 教科横断的な課題解決学習により、各教科の学習が社会や自然に存在する課題や疑問の解決につながることを実感し、課題や疑問を見出す広い視野およびその課題解決のための科学的探究能力（※）の素養を身に付ける。
- ※科学的探究能力を以下の4つとする。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・【文献】先行研究、文献を探す力 …複数の情報源から情報を収集し、各教科の知識を生かして情報を理解・整理することで、自身がテーマとする分野に詳しくなり、既知と未知の堺を明確にしよう</li> <li>・【サイクル】探究サイクルを繰り返す力 …途中の失敗や得られた結果から、探究の方法を改善する議論をして、探究を進めよう</li> <li>・【課題仮説】課題発見力、仮説設定力 …自身の興味や経験、先行研究、文献をもとに、高い関心と確かな根拠をもって、課題と仮説を設定しよう</li> <li>・【データ】情報、データを分析する力 …先行研究、文献、自身の調査結果の中にある事実を科学的手法によって見出し、提示しよう</li> </ul>
---

3 実施計画

(1) 1学年

【文献】、【データ】のそれぞれのテーマに対して、複数の教科担当で連携して教材を検討し、教科横断的な授業を企画・実施する（【サイクル】、【課題仮説】は地域科学探究で実施）。

※石楠花ホールを会場にクラス毎に着席し、授業を実施。

(2) 2学年

【文献】、【データ】、【サイクル】、【課題仮説】のそれぞれのテーマに対して、生徒それぞれがもつSS総探またはSS理数総探の探究テーマを教材として、グループワークやプレゼンテーションを主とした授業を企画・実施する。

※ゼミ単位で4階の各クラス教室と特別教室に生徒と教員を分け、配信による授業を実施。

(3) 3学年

2学年時のSS総探またはSS理数総探の探究の内容を論文にまとめる指導を行う。

※ゼミ単位で3階の各クラス教室と特別教室に生徒を分け、ゼミ担当教員による指導を実施。

4 実施講座一覧

	テーマ	概要
1学年	【文献】	アナログ（新聞、本）とデジタル（Web サイト）のそれぞれの媒体の活用方法およびメリットとデメリットの解説を行う。その際、媒体に関わらず読解力の不足により誤って情報を認識してしまうことの危険についても触れる。最終回は実際に Web サイトから情報を収集する演習を行う。
	【データ】	探究活動の概要を確認した上で、情報端末を利用した情報の処理や分析を実習し、Web や AI などの利便性や注意点を学ぶ。最後は実際に指定した情報を探す活動を行い、入手した情報の信頼性について講義を行う。
2学年	【文献】	はじめに昨年の探究基礎で学んだ各調査方法について復習する。そして各研究グループの探究テーマに関連するキーワードについて、個人で調べ、授業（スライド）を作って発表し合う。
	【課題仮説】	探究活動における背景、目的（仮説）の設定のポイントについて講義を行う。各研究グループの動機、背景、目的（仮説）までをまとめ、発表し合う。異なるゼミのグループと合同で実施することで、分野横断的な視野も養う。
	【データ】	各研究グループで、「もし計画通りに調査や実験ができれば、どのような結果が得られそうか」と予想し、仮の結果をグラフや表などにまとめる。またデータの処理についても検討する。
	【サイクル】	各研究グループで、現時点の自身の探究内容に対して批判を行い「自己批判シート」を作成する。他のグループの「自己批判シート」を見ることにより、自身に欠けている視点を見つけ、取り入れる。
3学年	論文作成	論文の構成についてガイダンスを実施した上で、各研究グループに対し担当教員が個別に添削指導を行う。また自身の探究の内容に沿う論文コンテストを探し、応募するよう促す。

【関係資料7】

科学英語 年間指導計画

- 1 学年・組 第2学年4組（理数科）
- 2 単位数 2単位（「英語表現Ⅱ」2単位を代替）
- 3 授業形態 英語科教員とALTによるTeam Teaching
- 4 使用教材 『be clear English Logic and Expression Ⅱ』（いいずな書店）、『CNN Science』（朝日新聞社）
- 5 学習到達目標 科学的な英語に触れ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、科学的な内容に関する情報や考えなどを的確に理解したり、事実や意見などを多様な観点から考察し論理の展開や表現の方法を工夫しながら適切に伝えたりする能力を養う。
- 6 評価方法 自作テスト、パフォーマンステスト、授業での言語活動
- 7 学習計画

学期	単元	学習内容	観点別評価規準 〔主〕 主体的に学習に取り組む態度 〔知技〕 知識・技能 〔思判表〕 思考・判断・表現	考查範囲
前期	Introduction (1) Term1 (9) 教科書	本文を読み、内容について理解し、自分の意見を述べる。	〔主〕 積極的に科学的な知識を吸収しようとするとともに、自分の考えを英語で表現する活動に取り組むことができる。 3年生の研究や発表に関心を持ち、研究発表の進行について主体的に取り組むことができる。 〔知技〕 モデルとなる長文やプレゼンテーションの英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解できる。 〔思判表〕 科学的な文章の内容や語句などを理解し、その分野について考え自分の考えを伝えることができる。 英作文やスピーチなどにおいて、必要となる表現を駆使してわかりやすく自分の考えなどを伝えることができる。	前期中間
	Science Dialogue (2)  英語プレ発表会 (2)	事前学習 外部講師による英語講義  3年生のプレゼン資料を読み、質問を考える。意見を述べる練習をする。		
前期	Term2 (13) CNN	本文やグラフの内容について理解し、自分の意見を述べる。 テーマについて、賛成・反対両方の理由を述べる。	〔主〕 現代社会で起きている様々なことに興味を持ち、それに対する自分の意見をクラスメイトに伝え、即興で会話することができる。 〔知技〕 モデルとなる長文やプレゼンテーションの英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 クラスメイトの意見を聞いて、内容を正確に理解することができる。 〔思判表〕 資料を用いてわかりやすくプレゼンすることができる。 論理展開に留意して、既習の語彙や文法を活用して聞き手・読み手を意識しながら作文・スピーチすることができる。	前期末
	英語発表会 (3)	3年生のプレゼンに対する質問や意見を述べる		
後期	Term3 (10) CNN	テーマ毎に問題点などを共有し、自分の意見を文章などにまとめ、議論をする。	〔主〕 現代社会で起きている様々なことに興味を持ち、それに対する自分の意見をクラスメイトに伝え、即興で会話することができる。 〔知技〕 モデルとなる長文やプレゼンテーションの英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 クラスメイトの意見を聞いて、内容を正確に理解することができる。 〔思判表〕 資料を用いてわかりやすくプレゼンすることができる。 論理展開に留意して、既習の語彙や文法を活用して聞き手・読み手を意識しながら作文・スピーチすることができる。	後期中間
	Science Dialogue (4)  Term4 (12) 独自に用意したワークシート	事前学習 外部講師による英語講義  ワークシートを用いて、子音を中心に発音練習をする。		
後期	ゼミ関連	英語発表に向けた活動 研究スライド作成 スクリプト作成		後期末

【関係資料8】

S S H 海外研修 実施計画書（抜粋）

1. 件名 『S S H台湾 海外研修』

2. 実施目的

本研修の目的は次のとおりである。

- ・ 設定した探究課題に取り組み、言語の壁を越えて協働的に問題解決を図ることを通じて、国際的に活躍できる人材になるための資質・能力を伸ばす。
- ・ 大学や研究施設、企業等において、世界各地から集まっている研究者や技術者と交流を持つことで、国際的に活躍できる人材になろうとする意識・意欲を高める。
- ・ I C Tにおいて世界の最先端の地域で研修することを通じて、日本で継続的に学習してきたことを生かし、望ましい国際社会の発展の在り方について議論し考えを発表する。

3. 実施期間 令和7年12月9日（火）～令和7年12月13日（土）（4泊5日）

4. 参加人数

- ①岩手県立釜石高等学校教員 3名（佐藤早也華、堀越啓太、千葉伊織）
- ②岩手県立釜石高等学校生徒 10名（普通・理数科1年生、普通科および理数科2年生）

5. 研修先 国立台湾大学、新竹サイエンスパーク

6. 研修内容
- ①講義「森林環境及び資源学科」
  - ②課題解決型実習「台湾大学内の植物の葉の蒸散量についての講義と実験」
  - ③探究活動のポスターの英語発表と質疑応答
  - ④研究施設、企業の見学とそこで働く研究者・技術者との交流・ロボット作成

7. スケジュール抜粋

月日 (曜)	訪問先等	現地時刻	発着	活動内容	宿泊地
12/9 (火)	釜石高校 仙台空港 桃園国際空港 ホテル	11:45 17:15 20:35 22:30	発着 発着 着着	仙台空港へ移動  入国手続き後、現地添乗員と合流、ホテルへ移動	台湾 台北市
12/10 (水)	ホテル 国立台湾大学  国立台湾大学 ホテル	8:30 9:00  17:00 17:30	発着 着着  発着	国立台湾大学へ移動 国立台湾大学訪問 施設見学、講義及び質疑、課題解決プログラム① ホテルへ移動	台湾 台北市
12/11 (木)	ホテル 国立台湾大学  国立台湾大学 ホテル	8:30 9:00  17:00 17:30	発着 着着  発着	国立台湾大学へ移動 国立台湾大学訪問 課題解決プログラム②、発表、 教授・T Aとの意見交換、課題研究発表 ホテルへ移動	台湾 台北市
12/12 (金)	ホテル 新竹サイエンスパーク  新竹サイエンスパーク ホテル	7:30 9:00  16:00 17:30	発着 着着  発着	新竹サイエンスパークへ移動 新竹サイエンスパーク訪問 新竹サイエンスパーク見学、 日系企業見学、技術者との交流・ロボット作成 ホテルへ移動	台湾 台北市
12/13 (土)	ホテル 桃園国際空港 仙台空港 釜石高校	8:00 11:15 16:00 20:20	発着 発着 着着	桃園国際空港へ移動  入国手続き後、学校へ移動	

【関係資料9】 令和7年度教育課程表（普通科）

教科	科目	学年 コース 標準単位	1年	2年		3年			備考
				文系	理系	文Ⅰ系	文Ⅱ系	理系	
国語	現代の国語	2	②						論理国語は2・3年分割履修 文学国語は2・3年分割履修 古典探究は2・3年分割履修 国語実践は学校設定科目
	言語文化	2	③						
	論理国語	4		2	2	2	2	2	
	文学国語	4		2	2	1	1	1	
	古典探究	4		2	2	2	2	1	
	国語実践	1~3					2		
地理歴史	地理総合	2		②	②				文系日本史探究は2・3年分割履修 世界史探究は2・3年分割履修
	地理探究	3						◇3	
	歴史総合	2	②						
	日本史探究	3		○3		○3	○3	◇3	
	世界史探究	3		○3		○3	○3		
公民	公共	2		②	②				公共探究は学校設定科目
	政治・経済	2				2	2		
	公共探究	2~4						◇3	
数学	数学Ⅰ	3							SS数学で代替 数学ⅡはSS数学で一部代替、1・2年分割履修 SS数学で代替 発展数学Ⅱは学校設定科目 発展数学Bは学校設定科目 数学実践は学校設定科目
	数学Ⅱ	4		3	3				
	数学Ⅲ	3						▲3	
	数学A	2							
	数学B	2		2	2				
	数学C	2		1	1			1	
	発展数学Ⅱ	2~3				2		▲3	
	発展数学B	1~2				2		1	
数学実践	1~2					◆3	1		
理科	物理基礎	2			◆4	②			物理は基礎科目を履修後に履修、2・3年分割履修 SS化学で代替 化学は2・3年分割履修 生物は基礎科目を履修後に履修、2・3年分割履修 SS地学で代替 発展生物基礎は学校設定科目 発展地学基礎は学校設定科目
	物理	4						△3	
	化学基礎	2							
	化学	4			3			3	
	生物基礎	2		②	◆4	②			
	生物	4						△3	
	地学基礎	2							
	地学	4							
	発展生物基礎	2~3				2			
	発展地学基礎	2~3				2			
保健体育	体育	7~8	③	②	②	②	③	②	
	保健	2	①	①	①				
芸術	音楽Ⅰ	2	△②						音楽、美術、書道を継続履修
	音楽Ⅱ	2		△1					
	音楽Ⅲ	2					△2		
	美術Ⅰ	2	△②						
	美術Ⅱ	2		△1					
	美術Ⅲ	2					△2		
	書道Ⅰ	2	△②						
	書道Ⅱ	2		△1					
書道Ⅲ	2					△2			
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	③						英語探究は学校設定科目
	英語コミュニケーションⅡ	4		4	4				
	英語コミュニケーションⅢ	4				3	3	3	
	論理・表現Ⅰ	2	3						
	論理・表現Ⅱ	2		3	2				
	論理・表現Ⅲ	2				2	2	2	
英語探究	2~4					◆3			
家庭情報	家庭基礎	2	②						
情報Ⅰ	2	①						情報Ⅰの1単位はSS総探Ⅰで代替	
理数	理数探究基礎	1							
	理数探究	2~5							
共通教科・科目の単位数の計			22	32	32	25	23・25	25	
家庭	フードデザイン	2~8						2	
理数	SS数学	4~8	⑥						SS数学は学校設定科目
	SS化学	2~8	②						SS化学は学校設定科目
	SS地学	2~8	②						SS地学は学校設定科目
SS総探	SS総探基礎	1		①	①				SS総探基礎は学校設定科目
	SS総探Ⅰ	2	②						SS総探Ⅰは学校設定科目
	SS総探Ⅱ	1		①	①				SS総探Ⅱは学校設定科目
	SS総探Ⅲ	1				①	①	①	SS総探Ⅲは学校設定科目
専門教科・科目の単位数の計			12	2	2	1	1・3	1	
総合的な探究の時間			3~6						SS総探Ⅰ、SS総探基礎、SS総探Ⅱ、SS総探Ⅲで代替
ホームルーム活動			1	1	1	1	1	1	
合計			35	35	35	27	27	27	
備考			<p>1 授業の1単位時間は45分であり、年間を通して1単位分の授業時間を確保する。</p> <p>2 2年次の文系は3年次の文Ⅰ系または文Ⅱ系に進み、2年次の理系は3年次の理系に進む。</p> <p>3 3年次の文Ⅰ系は国公立大学等文系志望者のためのコース、文Ⅱ系は私立大学等文系志望者のためのコース、理系は国公立大学等理系志望者のためのコース。</p>						

【関係資料10】 令和7年度教育課程表（理数科）

教科	科目	学年	1年	2年	3年	備考
		標準単位				
国語	現代の国語	2	②			論理国語は2・3年分割履修 文学国語は2・3年分割履修 古典探究は2・3年分割履修
	言語文化	2	③			
	論理国語	4		2	2	
	文学国語	4		2	1	
	古典探究	4		2	1	
地理歴史	地理総合	2		②		
	地理探究	3			◇3	
	歴史総合	2	②			
	日本史探究	3			◇3	
	世界史探究	3				
公民	公共	2		②		公共探究は学校設定科目
	政治・経済	2				
	公共探究	2～4			◇3	
数学	数学Ⅰ	3				
	数学Ⅱ	4				
	数学A	2				
理科	化学基礎	2				
	地学基礎	2				
保健体育	体育	7～8	③	②	②	
	保健	2	①	①		
芸術	音楽Ⅰ	2	△②			
	音楽Ⅱ	2				
	美術Ⅰ	2	△②			
	美術Ⅱ	2				
	書道Ⅰ	2	△②			
	書道Ⅱ	2				
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	③			論理・表現Ⅱは科学英語で代替 科学英語は学校設定科目
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		
	英語コミュニケーションⅢ	4			3	
	論理・表現Ⅰ	2	3			
	論理・表現Ⅱ	2				
	論理・表現Ⅲ	2			2	
	科学英語	2～4		2		
家庭情報	家庭基礎	2	②			情報Ⅰの1単位はSS総探Ⅰで代替
	情報Ⅰ	2	①			
理数	理数探究基礎	1				SS理数総探基礎で代替
	理数探究	2～5				SS理数総探Ⅱ、SS理数総探Ⅲで代替
共通教科・科目の単位数の計			22	19	14	
理数	理数数学Ⅰ	4～8				SS数学で代替
	理数数学Ⅱ	8～14		⑤	③	理数数学Ⅱは2・3年分割履修
	理数数学特論	3～10		1	2	理数数学特論は2・3年分割履修
	理数物理	3～8				SS物理で代替
	理数化学	3～8				SS化学で代替
	理数生物	3～8				SS生物で代替
	理数地学	3～8				SS地学で代替
	SS数学	4～8	⑥			SS数学は学校設定科目
	SS物理	2～8		△④	△③	SS物理は学校設定科目、2・3年分割履修
	SS化学	2～8	②	②	③	SS化学は学校設定科目、1～3年分割履修
	SS生物	2～8		△④	△③	SS生物は学校設定科目、2・3年分割履修
SS地学	2～8	②	①		SS地学は学校設定科目、1・2年分割履修	
SS総探	SS理数総探基礎	1		①		SS理数総探基礎は学校設定科目
	SS総探Ⅰ	2	②			SS総探Ⅰは学校設定科目
	SS理数総探Ⅱ	1		①		SS理数総探Ⅱは学校設定科目
	SS理数総探Ⅲ	1			①	SS理数総探Ⅲは学校設定科目
専門教科・科目の単位数の計			12	15	12	
総合的な探究の時間		3～6				SS総探Ⅰ、SS理数総探Ⅱ、SS理数総探Ⅲで代替
ホームルーム活動			1	1	1	
合計			35	35	27	
備考			授業の1単位時間は45分であり、年間を通して1単位分の授業時間を確保する。			

令和7年度第1回運営指導委員会 会議録（概要）

日時：令和7年6月9日（月） 14：15～15：45

協議内容

1 令和6年度SSH事業の成果と課題について

(1) 概要説明（省略）

(2) 質疑応答、提言等

**委員A**：アンケート調査が多い印象。SSH推進校として、アンケート結果ではなく、実験検証があるべきなのではと感じた。また、仮説から始めることは、生徒に過度な負担をかけているのでは。仮説とはある程度実験を行った上で出てくるものである。何もデータがない状態で生まれるものではない。アンケート調査でも仮説があることによって、偏見が入ってしまう可能性もある。

**回 答**：文系のゼミグループがアンケート調査に偏っている。理系の研究班は実験が中心である。

**委員B**：ベースがない状態に入ってしまうと、かなり大規模な着地点になってしまう傾向がある。高校生の段階では、ベースの考えを提供した上で仮説を設定するのが良いのでは。

**委員A**：仮説を立てる前の段階、さまざまな実験・調査をたくさんする中で、感覚を知ったり実験の流れを知ったりするという前段階は、生徒にも知ってもらおうと良いのでは。

**委員C**：「仮説」という言葉が一人歩きしているのではないかと。SSHというのは理系人材を育成するという中で、一連の研究の流れ・プロセスを経験するというのも一つの目標ではないだろうか。したがって、まずは生徒の興味を持てる素材やテーマを発見するというのが第一段階なのではないか。役に立つか立たないかは置いておいて、研究・探究の世界に興味を持ってもらうだけでも十分な成果だと考える。

**委員D**：「仮説」という言葉を使わなくてもいいのではないかと。探究活動において掘り起こす問題の「仮の答え」というイメージで生徒・外部メンターも「仮説」という言葉を使っていると考ええる。

**委員E**：「例年に比べて立候補で代表を決めるゼミが多い」という記載があるが、これは良いことなのかそうではないのかを聞きたい。また、代表の決め方などの指導のあり方について協議したい。

**回 答**：良いことと捉えている。代表の決め方は各ゼミに任せている。全体に話したいという意味での立候補も増えている。内容の方も、各ゼミで精査していると認識している。

**委員E**：例えば項目を分け点数で選ぶなど、生徒にとってもわかりやすい指標があると良いのではないかと。

**委員F**：SSHの活動をどのように評価するかについて、教職員間で評価の違いがあった理由を知りたい。

**回 答**：6年度報告書のP11 イ の最後の部分。5年度は新たな取組などを行ったが、その結果SSHの意義に対する認識に差が生じ、教職員間の評価が二分したと考えられる。6年度はその取組を当たり前のものと捉えられるようになったため評価が落ち着いたのでは。また、アンケートの結果にどの程度関与しているかはわからないが、SSH推進部について、昨年度は主導するのはSSH推進室になったこと、探究基礎の取組が特定の先生の担当になったことが関わっているのではないかと考える。

**委員F**：表1の中で英語表現がマイナス評価になっている一方で、台湾のプログラムは生徒にとっては有意義な結果になっているが、通常のゼミ活動では英語を取り入れなかったからなのか、そこを知りたい。せっかくいい機会なので、特定の生徒に限らず全体にも広げていければと考える。

**回 答**：理数科と普通科で捉え方が異なっているためだと考える。

**委員G**：「仮説」について、「探究学習デザインメソッド」から「問い」をどのように設定するかといったワークショップ形式のものがあるので、以下のサイトが参考になれば。

<https://ong.iis.u-tokyo.ac.jp/inquiry-based-learning-design-method/design-method.html>

2 令和7年度SSH事業の概要について

(1) 概要説明（省略）

(2) 質疑応答、提言等

**委員H**：教科横断型を行う趣旨を教えてください。教職員のスキル向上を目的としているか、さまざまな角度から見ることで新たな発見を得て、興味のある分野を掘り下げることなのか。

**回 答**：後者である。前者のスキルの部分も重要なことだと考える。

**委員H**：専門分野の壁を越えるのは難しいと耳にするがどうか。

**回 答**：他の先生とコラボレーションした形をとっている。一人の先生が専門的な指導をするというところまでは行けていない。しかし、そういったものを楽しんでいる先生もいる。今までやってきた授業の中で教科横断的な題材を必ずやっているはずなので、その授業の事例などを集める取組をしている。

## 令和7年度第2回運営指導委員会 会議録（概要）

日時：令和8年2月6日（金） 14：30～16：00

協議内容

### 1 令和7年度SSH事業の成果と課題について

#### （1）概要説明（省略）

#### （2）質疑応答、提言等

**委員A**：成果と反省の部分で、卒業生メンターの参加について言及されている。去年と比べて卒業生メンターや協働先がどのくらい増えているのか具体的に教えてほしい。

**回 答**：発表会に関わった卒業生は、去年は1人であった。今年度は、11名の卒業生が参加することになっている。また、去年の協働先は40くらいであったが、今年の協働先については、手元に具体的なデータはないが60～70程度になる。

**委員B**：協働先が増えた要因として考えられるのは？

**回 答**：地域コーディネーターの存在が大きい。また、市役所に本校卒業生が入り、その卒業生が他の卒業生と繋いでくれた。

**委員B**：こうした卒業生とのつながりは、探究を深める上でとても大切だと思う。

**委員B**：アンケートの調査結果を見ると、「探究活動が楽しい」といったところが非有意となっている。また、他の項目も非有意となっているところがある。これらの要因として考えられることは何か。

**回 答**：「探究活動が楽しい」と答えた1年生の値が1月時点で低いことが非有意となっている要因と思われるが、それはまだ周りが見えておらず探究活動の重要性が認識できていないことが原因ではないか。また、ほかの項目については、10月の時点で高い評価を得ているために非有意になったこと、理数科で高い評価でも普通科の人数が多いため平均すると普通科寄りになってしまい低くなる傾向があることなどが要因であると考えられる。普通科が低い理由については探究と教科のつながりをあまり感じられていない生徒がまだ多いということが考えられる。

**委員B**：10月の時点で高い評価を得ているために、非有意になったという部分が多いのかなという印象を受ける。

### 2 令和8年度SSH事業の概要について

#### （1）概要説明（省略）

#### （2）質疑応答、提言等

**委員A**：探究基礎の方向性について、解決したい課題があれば教えてほしい。

**回 答**：ゼミの研究テーマが変わるなどして、動き出しが遅くなってしまうグループがあった。来年は中間発表会前にテーマ発表会をやることになっている。また、来年はコーディネーターが1名となってしまう。そのため、効率よく学校と地域を繋げていく流れを作っていかなければならないと考えているが、現段階では概ねうまく進行できている。探究基礎の改善については、来年度時間を十分に確保することができない時間割になってしまったので、見直していく必要がある。

**委員A**：探究基礎から本研究に移行する期間が短くなってしまうのではないか。

**回 答**：研究時間の確保をするために、時間のバランスなどを考慮する必要があると考えている。

**委員A**：ゼミの研究テーマが変わり動き出しが遅くなってしまうということは、研究テーマがまとまらない、あるいは間に合わないということか。

**回 答**：研究テーマの内容については提出させてはいるが、いざ動き出したときに不可能な部分が出てきて、研究テーマに迷いが生じる生徒もいる。迷っているだけで研究が進まない場合もあるのでそういった部分を指導・修正している。

- 委員A**：こうした研究テーマの迷いといった部分は大学での研究に通じる部分もあるのではないかと？
- 委員B**：確かに通じる部分がある。なかなか難しいところではあるが、探究がスムーズに行えるような流れ作りをぜひお願いしたい。
- 委員C**：研究をスムーズに行っていくためには、研究のフローチャートの提示や、外部メンターなどの充実も必要だと思う。
- 委員A**：この資料の中には教職員の意識調査の結果が入っていないが、先生方のSSHに対する熱量はどうか。肌感でよいので教えてほしい。また、SSHの取組で大変だった部分を教えていただきたい。
- 回答**：先生方には協力的に取り組んでいただいている。生徒の数が減ってきており今後の教職員数がどうなるのか、あるいはⅣ期に入るとより高レベルな取組が期待されそれにより負担がどのくらい増えるのかなどの不安を持つ先生もいる。
- 委員A**：ほかの学校だと、総合的な探究の時間として独自の予算で動かなければならず大変な部分もある。一方で、釜石高校の場合はこれまでの取組の蓄積がある点が素晴らしい。Ⅳ期に移行するにせよ、総合的な探究の時間に戻るにせよこうした蓄積は非常に役に立つと思う。また、地域とのつながりがあるという点も素晴らしいと思う。
- 回答**：釜石市の協力が手厚いことがとてもありがたい。地域コーディネーターを通じて、学校と地域を繋げることもできる。また、釜石市との774（ナナシ）プロジェクトで生徒にボランティア活動の斡旋や進路に関わる相談もしていただいている。
- 委員B**：ほかの地域ではこうした体制が取られていない場合が多い。釜石高校のこの体制をモデルケースとして普及していく必要がある。
- 委員D**：釜石高校さんが様々な人を巻き込んで、非常に活発に活動をなさっていることはよく理解した。その中で、教職員の方々を含めてそれぞれの役割はどのようになっているのか教えていただきたい。様々な方を巻き込んでいくとなると教職員の負担も増えるのではないかと？
- 回答**：ゼミ推進部に所属している教職員がゼミ長と副ゼミ長に指示を出し、その指示を正副ゼミ長がゼミで周知している。定期的な外部メンターがいるゼミの教職員は、連絡の窓口をしている。理数科のゼミでは、実験や分析の指導などの役割がある。また、研究の内容や進度のチェックのほかに、アンケート調査や外部と連携を取りたいという要望が生徒から出た場合、その中身をチェックすること、地域コーディネーターなどを通じて生徒と外部を繋げることなどは各ゼミの教職員の役割である。負担感については、未知の分野についても指導しなければならないこと、また、やるべきことが増えていく中で取捨選択の判断が難しいところもあり、こうした部分に負担を感じていると考えられる。
- 委員D**：どうしても教職員が探究活動をすることが難しくなった場合は外部人材を活用するなど、教職員の仕事と外部メンターの役割のすみわけをしていく必要があるのではないかと？
- 委員B**：卒業生に外部メンターとして探究活動等に関わっていただくといった工夫も必要になってくるのではないかと？
- 委員E**：オンラインの通信環境を整備してほしい。リモートで参加している人にはかなり聞きづらかった。

【関係資料12】 用語集

用語	意味
SSHの手引き	ゼミ活動に必要な情報をまとめた、本校の生徒や職員向け探究ガイドブック。
SSH推進室	SSH事業全体の企画・総括・経理を行うために組織された独立の分掌。
SSH推進部	SSH事業の運営・推進を図るために設置され、全職員はキャリア推進部、ICT推進部、探究基礎推進部、地域・国際連携推進部、ゼミ推進部のいずれかに所属。
SS総探	本校の学校設定教科。
OPP	一枚の様式に一連の活動の振り返りを記述する One Page Portfolio の略。
釜フェス	地域の小中学生、地域住民を対象にゼミ活動の研究内容を発信する体験授業型プログラム。
県内版SSH校	岩手県で行っている探究・STEAM教育推進事業の9校の指定校。
互見授業期間	職員がお互いの授業をより参観しやすいように設定した期間。
STEEL人材育成プログラム	本校が育成すべき科学的探究能力（STEAM+Education+Entrepreneurship+Local）をSTEELと定義し、国際的な視野を持ち、主体的、協働的に地域課題に取り組む姿勢をもった科学技術人材（STEEL人材）を育成するプログラム。
ゼミ	学年間連携による、教科や分野で構成したグループ。現在、普通科9ゼミ、理数科3ゼミ。
ゼミ長会議	ゼミ推進部が主催し、各ゼミ生徒の代表としてゼミ長、副ゼミ長が出席する、ゼミ運営の会議。
探究基礎	探究活動の基礎や教科横断的な課題解決学習を行う単元。
地域コーディネーター	釜石市から配置されている教育魅力化コーディネーター。
中学生一日体験入学	中学3年生及び保護者を対象とした、高校公開事業。
774プロジェクト	地域連携の一環として校舎を利用して行う、放課後の探究活動支援。
メンター	生徒からの研究の悩みや躓きの相談を受け、助言などでサポートする相談役。上級生メンターは生徒、卒業生メンターはSSH事業卒業生、外部人材メンターは研究機関や地域の大人。

令和4年度指定 岩手県立釜石高等学校  
スーパーサイエンスハイスクール  
研究開発実施報告書（第4年次）

発行日 令和8年3月2日

発行者 岩手県立釜石高等学校

〒026-0055 岩手県釜石市甲子町10-614-1

TEL 0193-23-5317 FAX 0193-23-8611

岩手県立釜石高等学校SSH Facebook

